

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置							
フリガナ設置者	コクリツガクカクジン ミヤザキガク							
フリガナ大学の名称	ミヤザキガクカクイン 宮崎大学大学院 (University of Miyazaki Graduate School)							
大学本部の位置	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地							
大学の目的	<p>本法人及び本学（以下「本学等」という。）は、人類の英知の結晶としての学術・文化に関する知的遺産を継承・発展させ、豊かな人間性と創造的な課題解決能力を備えた人材の育成を目的とし、学術・文化の基軸として、地域社会及び国際社会の発展と人類の福祉の向上に資することを使命とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>教育学研究科は、学部における専門教育又は教職経験の基礎の上に、確かな教育観と幅広い視野を持ち、高度の専門知識及び実践力を備えて、学校教育において教育研究の中核となる人材の養成を目的とする。</p> <p>教職実践開発専攻では、学校教育に関する高度の学識及び実践力・応用力を備えた新任教員やミドルリーダー（中堅教員）及びスクールリーダー（中核的中堅教員）を育成することを目的とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	教育学研究科 [Graduate school of Education]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	教職実践開発専攻 [Major in Development of the teaching Profession]	2	20	—	40	教職修士（専門職） [Master of Education (Profession)]	2020年4月 第1年次	宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
計		20	—	40				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>・2020年4月 医学部 医学科 [定員減] (△10) ※2019年度までの入学定員暫定増終了に伴う減</p> <p>教育学研究科 学校教育支援専攻 [廃止] (△8) ※学校教育支援専攻は、2020年4月学生募集停止</p> <p>地域資源創成学研究科 地域資源創成学専攻 (5) (2019年3月意見伺い提出)</p> <p>医学獣医学総合研究科 医科学獣医科学専攻 [定員増] (2)</p>						基礎となる学部 教育学部 14条特例の実施 「教職大学院」	
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	教育学研究科	講義	演習	実験・実習	計			
		29科目	79科目	13科目	121科目	48単位		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 設 分			人	人	人	人	人	人	
	教育学研究科 教職実践開発専攻 (専門職学位課程)		10 (10)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	51 (51)
	地域資源創成学研究科 地域資源創成学専攻 (修士課程)		7 (7)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	48 (48)
	計		17 (17)	18 (18)	4 (4)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	— (—)
	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)		10 (10)	2 (2)	7 (7)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	23 (23)
	工学研究科 工学専攻 (修士課程)		40 (40)	31 (31)	0 (0)	16 (16)	87 (87)	0 (0)	0 (0)
	農学研究科 農学専攻 (修士課程)		40 (40)	32 (32)	3 (3)	10 (10)	85 (85)	0 (0)	7 (7)
	医学獣医学総合研究科 医科学獣医科学専攻 (修士課程)		59 (59)	31 (31)	9 (9)	7 (7)	106 (106)	0 (0)	0 (0)
	医学獣医学専攻 (博士課程)		62 (62)	27 (27)	6 (6)	6 (6)	101 (101)	0 (0)	1 (1)
	農学工学総合研究科 資源環境科学専攻 (博士後期課程)		34 (34)	23 (23)	2 (2)	5 (5)	64 (64)	0 (0)	0 (0)
	生物機能応用科学専攻 (博士後期課程)		14 (14)	13 (13)	0 (0)	3 (3)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
	物質・情報工学専攻 (博士後期課程)		31 (31)	27 (27)	0 (0)	8 (8)	66 (66)	0 (0)	0 (0)
	計		290 (290)	186 (186)	27 (27)	56 (56)	559 (559)	0 (0)	— (—)
	合 計		307 (307)	204 (204)	31 (31)	56 (56)	598 (598)	0 (0)	— (—)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体
	事 務 職 員		403人 (403人)		0人 (0人)		403人 (403人)		
	技 術 職 員		989人 (989人)		0人 (0人)		989人 (989人)		
	図 書 館 専 門 職 員		4人 (4人)		0人 (0人)		4人 (4人)		
	そ の 他 の 職 員		57人 (57人)		0人 (0人)		57人 (57人)		
	計		1,453人 (1,453人)		0人 (0人)		1,453人 (1,453人)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体
	校 舎 敷 地	386,343㎡	0㎡		0㎡		386,343㎡		
	運 動 場 用 地	107,787㎡	0㎡		0㎡		107,787㎡		
	小 計	494,130㎡	0㎡		0㎡		494,130㎡		
	そ の 他	7,356,114㎡	0㎡		0㎡		7,356,114㎡		
	合 計	7,850,244㎡	0㎡		0㎡		7,850,244㎡		

校舎		専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		109,829㎡ (109,829㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	109,829㎡ (109,829㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	142室	326室	834室	13室 (補助職員 0人)	4室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		教育学研究科			20	室			
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能のため、 大学全体の 数	
	教育学研究科	628,873 〔183,596〕 (628,873 [183,596])	15,014 〔4,476〕 (15,014 [4,476])	5,803 [5,803] (5,803 [5,803])	5,090 (5,090)	39,788 (39,788)	70 (70)		
	計	628,873 〔183,596〕 (628,873 [183,596])	15,014 〔4,476〕 (15,014 [4,476])	5,803 [5,803] (5,803 [5,803])	5,090 (5,090)	39,788 (39,788)	70 (70)		
図書館		面積		閲覧座席数	収納可能冊数		大学全体		
		7,005㎡		853席	553,694冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		4,444㎡		武道場、弓道場、多目的グラウンド、球技コート、テニスコート、プール					
経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等								
	共同研究費等								
	図書購入費								
	設備購入費								
学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									
既設大学等の 状況	大学の名称	宮崎大学							
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地
	教育学部 学校教育課程	年	人	年次 人	人		倍		宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地
		4	120	—	480	学士(教育学)	1.04 1.04	平成28年度	
	医学部								
	医学科	6	110	3年次	660	学士(医学)	1.01 1.00 1.00	平成15年度	宮崎県宮崎市清武 町木原5200番地
	看護学科	4	60	10	260	学士(看護学)	1.01	平成15年度	
	工学部								
	環境応用化学科	4	58		232	学士(工学)	1.01 1.00	平成24年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地
	社会環境システム工学科	4	53		212	学士(工学)	1.01	平成24年度	
環境ロボティクス学科	4	49		196	学士(工学)	1.02	平成24年度		
機械設計システム工学科	4	54		216	学士(工学)	1.02	平成24年度		
電子物理工学科	4	53		212	学士(工学)	1.00	平成24年度		
電気システム工学科	4	49		196	学士(工学)	1.01	平成24年度		
情報システム工学科	4	54		216	学士(工学)	1.02	平成24年度		
(学科共通)			3年次 10	20					
材料物理工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成15年度	平成24年度より学生募集停止	

農学部						1.01 1.04		宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	4年制学科 6年制学科
植物生産環境科学科	4	52	—	208	学士（農学）	1.01	平成28年度		平成28年度入学定員増(2人)
森林緑地環境科学科	4	52	—	208	学士（農学）	1.01	平成28年度		平成28年度入学定員増(2人)
応用生物科学科	4	57	—	228	学士（農学）	1.01	平成28年度		平成28年度入学定員増(2人)
海洋生物環境学科	4	33	—	132	学士（農学）	1.02	平成28年度		平成28年度入学定員増(3人)
畜産草地科学科	4	61	—	244	学士（農学）	1.01	平成28年度		平成28年度入学定員増(11人)
獣医学科	6	30	—	180	学士（獣医学）	1.04	平成22年度		
地域資源創成学部						1.06		宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	
地域資源創成学科	4	90	—	360	学士（教育学）	1.06	平成28年度		
大 学 院 の 名 称	宮崎大学大学院								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	取容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
教育学研究科 （修士課程） 学校教育支援専攻 （専門職学位課程） 教職実践開発専攻	2 2	8 28	— —	16 56	修士（教育学） 教職修士（専門職）	1.06 0.78	平成20年度 平成20年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	
医科学看護学研究科 （修士課程） 看護学専攻	2	—	—	—	修士（看護学）	—	平成17年度	宮崎県宮崎市清武 町木原5200番地	平成26年度より学生募集停止
看護学研究科 （修士課程） 看護学専攻	2	10	—	20	修士（看護学）	0.90	平成26年度	宮崎県宮崎市清武 町木原5200番地	
工学研究科 （修士課程） 工学専攻	2	134	—	268	修士（工学）	1.04	平成28年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	
農学研究科 （修士課程） 農学専攻	2	68	—	136	修士（農学） 修士（水産学） 修士（学術）	0.83	平成26年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	
医学獣医学総合研究科 （修士課程） 医科学獣医学専攻	2	8	—	16	修士（医学） 修士（動物医科学）	1.24	平成26年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	
（博士課程） 医学獣医学専攻	4	23	—	92	博士（医学） 博士（獣医学）	1.46	平成22年度	宮崎県宮崎市清武 町木原5200番地	
医学系研究科 （博士課程） 医学専攻	4	—	—	—	博士（医学）	—	平成20年度	宮崎県宮崎市清武 町木原5200番地	平成22年度より学生募集停止
細胞・器官系専攻	4	—	—	—	博士（医学）	—	平成17年度		平成20年度より学生募集停止
生体制御系専攻	4	—	—	—	博士（医学）	—	平成17年度		平成20年度より学生募集停止
農学工学総合研究科 （博士後期課程） 資源環境科学専攻	3	7	—	21	博士（農学） 博士（工学）	1.18	平成19年度	宮崎県宮崎市学園 木花台西1丁目1番 地	
生物機能応用科学専攻	3	4	—	12	博士（学術）	0.75	平成19年度		
物質・情報科学専攻	3	5	—	15	博士（工学） 博士（学術）	1.14	平成19年度		

附属施設の概要		
	<p>名称：産学・地域連携センター 目的等：産学・地域連携活動の拠点 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成22年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 3,127㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：教育・学生支援センター 目的：大学教育に関わる企画事業と学生支援事業 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成22年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 138㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載) ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：フロンティア科学実験総合センター 目的：先端的な生命科学研究推進と大学の広範囲な教育研究活動支援 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎県宮崎市清武町木原5200番地 設置年月：平成15年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 1,877㎡ 224,316㎡(清武キャンパス) 建物 4,307㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：国際連携センター 目的：学術研究や教育の国際連携・協力事業支援 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成18年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 819㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：産業動物防疫リサーチセンター 目的：産業動物の重要伝染病に関する先端的研究及び防疫危機管理能力を有する人材の育成 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成23年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 1,816㎡(農学部内に設置のためフロア面積を記載) ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：語学教育センター 目的等：実践的な語学力の向上、留学生に対する日本語教育 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成25年7月1日 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 - ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：IR推進センター 目的：大学の目標・計画、運営方針の策定及び意思決定を支援 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成25年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 632㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載) ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：教育学部附属教育協働開発センター 目的：学部、大学院及び地域社会における教育の発展充実に寄与 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成25年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 534㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：医学部附属病院 診療科数：29診療科 病床数：632床(共通病床等を含む) 所在地：宮崎県宮崎市清武町木原5200番地 設置年月：昭和52年4月18日 開院年月：昭和52年10月31日 規模等：土地 224,316㎡(医学部全体の面積) 建物 76,403㎡</p>	

	<p>名称：農学部附属フィールド科学教育研究センター 目的等：「自然との共生」及び「食と環境の調和」を追求する教育研究を行う 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地（木花フィールド） 宮崎県宮崎市大字島之内10100-1（住吉フィールド） 宮崎県宮崎市田野町乙 11300（田野フィールド） 宮崎県延岡市赤水町 376-6（延岡フィールド） 設置年月：平成13年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 2,585㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積 土地 502,040㎡(住吉フィールド) 建物 5,690㎡ 土地 5,008,607㎡(田野フィールド) 建物 990㎡ 土地 6,104㎡(延岡フィールド) 建物 1,049㎡</p>	
	<p>名称：農学部附属動物病院 目的等：動物診療（二次診療病院）、地域の獣医師の相談・研修の施設等 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：昭和28年8月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 1,634㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：農学部附属農業博物館 目的等：農業に関する調査研究・実物標本、模型、文献等を収集・保管・展示 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成10年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) 建物 766㎡</p>	
	<p>名称：教育学部附属小学校 目的：児童の教育及び小学校の教育研究・教育実習・教育振興 所在地：宮崎県宮崎市花殿町7番49号 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 39,980㎡(附属中学校の敷地を含む) 建物 7,162㎡</p>	
	<p>名称：教育学部附属中学校 目的：生徒の教育及び中学校の教育研究・教育実習・教育振興 所在地：宮崎県宮崎市花殿町7番67号 設置年月：昭和26年4月 規模等：土地 39,980㎡(附属小学校の敷地を含む) 建物 7,419㎡</p>	
	<p>名称：教育学部附属幼稚園 目的：幼児の保育及び幼稚園の教育研究・教育実習・教育振興 所在地：宮崎県宮崎市船塚1丁目1番地 設置年月：昭和42年6月 規模等：土地 21,797㎡ 建物 913㎡</p>	
	<p>名称：安全衛生保健センター 目的：学生及び職員の心身の健康の保持増進・全学的な安全衛生管理 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成16年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) ㎡ 建物 434㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載) ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：情報統括機構 目的：情報基盤、情報システム等の運用管理・情報利用者支援 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成22年10月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) ㎡ 建物 1,254㎡ ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	
	<p>名称：障がい学生支援室 目的：障がい学生の修学に関わる学内外の関係部局等と連携した支援 所在地：宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 設置年月：平成27年4月 規模等：※土地 778,523㎡(木花キャンパス) ㎡ 建物 434㎡(事務室の一部に設置のためフロア面積で記載) ※土地の面積は、キャンパスの総面積</p>	

教育課程等の概要																	
(教育学研究科教職実践開発専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通領域科目	に教育課程の領域編成・実施	子どもの学びと教育課程経営	1前		2				○		1	2				オムニバス共同	
		特別支援学校の教育課程とカリキュラムマネジメント	1前		2				○				1			兼2 オムニバス	
		学校改善とカリキュラムマネジメント	1後	2					○					1		兼1 共同	
	域教科等の実践的指導方法等に関する領域	教科学習の構成と展開・評価と課題	1前		2					○		4	2				兼1 オムニバス共同 ※講義
		教科外活動の構成と展開・評価と課題	1後		2					○		1	1	1			兼1 オムニバス共同
		障害児アセスメントと個別の指導計画	1前		2					○		1					兼1 オムニバス
		特別支援教育の教科・領域の構成と展開・評価と課題	1後		2					○		1		1			兼1 オムニバス
		情報メディアによる実践的指導方法と課題	1前	2						○			1				兼1 共同
	る育生領域に導く指導	生徒指導の実践と課題	1前	2						○		1	1				兼1 オムニバス共同
		学校カウンセリングの実践と課題	1後	2						○		1	1				兼1 オムニバス共同
	る学校・学級経営に関する領域	学級経営の実践と課題	1前	2						○			2				兼1 共同
		学校経営の実践と課題	1後		2					○			1				兼1 共同
		特別支援学校・学級経営の実践と課題	1後		2					○	1			1			兼1 オムニバス
	域関在と学校教員教育にの	現代の教育課題と学校の社会的役割	1前	2						○				2			兼2 オムニバス
小計（14科目）		—	12	16	0				—		7	6	2	0	0	兼12 —	
コース科目	教職実践高度化コース	現代の教育課題と教育実践	1通年		2					○		2	4				兼3 共同
		授業研究と教師の成長	1前		2					○			3				オムニバス共同
		予防・開発的な生徒指導の理論とスキル開発	1前		2					○	1	1					共同
		学校組織マネジメントと評価	1前		2					○			1				兼1 共同
		現代の教育行財政の現状と課題	1前		2				○			1				兼1 共同	

教育課程等の概要															
(教育学研究科教職実践開発専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース科目	教職実践高度化コース	学校と地域との連携の実践と課題	1前		2		○			1					兼1 オムニバス
		教育コラボレーションの理論と事例演習	1後		2			○		1	1				兼2 オムニバス
		スクール・リーダーシップの理論	1後		2		○			1					兼1 共同
		小中一貫教育マネジメントの実践と理論	1後		2		○			1					兼2 オムニバス 共同
		教職員の職能開発とプログラム開発	1①		2		○			1					兼1 共同
		学校の危機管理の理論と事例演習A(災害対応)	1①		1			○			1				兼1 共同
		学校の危機管理の理論と事例演習B(保護者・地域住民対応)	1②		1			○		1	2				兼1 オムニバス 共同
		学校法規の理論と実務演習	1前		2			○			1				兼1 共同
	学校教育環境研究	1前		2			○								兼1
	コース選択科目	生徒指導・教育相談のためのアセスメントの理論とスキル開発 メンタルヘルスと臨床発達の理論とスキル開発 家庭教育支援・連携継続プログラムの理論とスキル開発 学校カウンセリング・コンサルテーション基礎実習 発達の理論とスキル開発 教授・学習の理論とスキル開発 学校心理支援の理論とスキル開発 生徒指導・教育相談のスキルアップ研修プログラム	1②		1		○			1	1				兼1 オムニバス 共同
			1前		2		○			1					兼2 オムニバス
			2②		1		○			1					兼1 共同
			1後		2			○		1	1				兼1 オムニバス 共同
			1③		1		○			1					兼1 オムニバス
			1①		1		○				1				兼1 共同
1④				1		○			1	1					共同
2①		1			○		1	1					共同		

教育課程等の概要															
(教育学研究科教職実践開発専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース科目	教職実践高度化コース コース選択科目 教育課程・授業研究分野)	教育課程編成の理論と方法	1前		2		○			1					兼2 共同
		小規模校のカリキュラムマネジメントと授業づくり	1後		2			○		1	2				兼1 オムニバス共同
		教科・領域を横断する教育実践と教育方法(キャリア教育を含む)	1前		2			○		1	2				兼1 共同
		生活指導と学習環境づくり	1前		2			○			3				兼2 オムニバス共同
		授業の分析・評価と学習開発	1後		2		○			1	2				兼1 オムニバス共同
		情報メディア教育開発研究	1後		2			○			1				兼1 共同
		道徳教育開発研究	1後		2			○		1	1				共同
		特別活動開発研究	1前		2			○			2				兼1 オムニバス共同
		授業の成立と学習集団づくり	1後		2			○			2				共同
	小計(31科目)	—	0	54	0		—		2	4	1	0	0	兼9 —	
教科領域指導力高度化コース	コース必修科目	教科領域授業研究	1前		2			○		4	2				共同 ※講義
		教科領域授業開発研究	1前		2			○		4	2				兼1 オムニバス共同 ※講義
		教科領域内容開発研究	1前		2			○		3	1	1			兼1 オムニバス共同 ※講義
	コース選択科目	言語教育系授業研究	1後		2			○			1				兼2 共同
		理数教育系授業研究	1後		2			○		1	1				兼2 共同
		社会認識教育系授業研究	1後		2			○		1					兼1 共同
		芸術教育系授業研究	1後		2			○		2					兼1 共同
		スポーツ・生活科学教育系授業研究	1後		2			○		1					兼2 共同

教 育 課 程 等 の 概 要															
(教育学研究科教職実践開発専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース科目 教科領域指導力高度化コース	言語教育系授業開発研究	1後		2				○			1				兼2 共同
	理数教育系授業開発研究	1後		2				○		1					兼3 共同
	社会認識教育系授業開発研究	1後		2				○		1					兼2 共同
	芸術教育系授業開発研究	1後		2				○		2					兼1 共同
	スポーツ・生活科学教育系授業開発研究	1後		2				○		2					共同
	言語教育系内容開発研究	1後		2				○							兼3 オムニバス共同
	理数教育系内容開発研究	1後		2				○		1					兼2 共同
	社会認識教育系内容開発研究	1後		2				○		1					兼2 オムニバス共同
	芸術教育系内容開発研究	1後		2				○		2					兼2 共同
	スポーツ・生活科学教育系内容開発研究	1後		2				○		1					兼2 共同
	言語教育系内容開発基礎研究ⅠA(国語学)	1前		2				○							兼2 オムニバス共同
	言語教育系内容開発基礎研究ⅠB(米文学)	1前		2				○							兼2 共同
	言語教育系内容開発基礎研究ⅡA(国文学)	1後		2				○							兼2 オムニバス共同
	言語教育系内容開発基礎研究ⅡB(英文学)	1後		2				○							兼2 オムニバス共同
	言語教育系内容開発基礎研究ⅢA(古典)	1前		2				○		1					兼2 オムニバス共同
	理数教育系内容開発基礎研究ⅠA(代数学)	1前		2				○			1				
	理数教育系内容開発基礎研究ⅠB(物理学)	1前		2				○		1					兼2 オムニバス共同
	理数教育系内容開発基礎研究ⅡA(幾何学)	1後		2				○							兼1
	理数教育系内容開発基礎研究ⅡB(化学)	1後		2				○							兼3 オムニバス共同
	理数教育系内容開発基礎研究ⅢA(解析学・応用数学)	1前		2				○		1					兼2 共同

教育課程等の概要															
(教育学研究科教職実践開発専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース科目	教科領域指導力高度化コース	コース選択科目	理数教育系内容開発基礎研究ⅢB(生物学・地学)	1後		2			○		1				兼4 オムニバス共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅠA(地理学)	1前		2			○		1				兼2 オムニバス共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅠB(歴史学)	1後		2				○					兼3 共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅡA(経済学)	1前		2				○		1			兼1 共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅡB(法学・政治学)	1後		2				○		1			
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅢA(社会学)	1前		2				○		1			
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅢB(倫理学)	1後		2				○		1			兼1 共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅠA(声楽)	1前		2			○		1				兼1 オムニバス共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅠB(美術・平面表現)	1前		2			○		1				兼2 共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅡA(器楽・合奏)	1後		2				○		1			兼2 オムニバス共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅡB(美術・立体表現)	1後		2				○		1			兼1 オムニバス共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅢA(音楽理論)	1前		2			○		1				兼1 共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅢB(造形鑑賞)	1後		2				○		1			兼1 共同
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠA(身体能力形成)	1前		2			○		1				兼2 オムニバス共同
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠB(食物・保育)	1前		2			○		1				兼1 オムニバス
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠC(技術)	1前		2			○						兼2 オムニバス
スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅡA(競争スポーツ)	1後		2				○		1			兼2 オムニバス共同			
スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅡB(被服)	1後		2				○					兼1			
スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅡC(栽培)	1後		2				○					兼1			

教育課程等の概要															
(教育学研究科教職実践開発専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース科目	教科領域指導力高度化コース	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅢA(保健)	1前		2		○								兼1
		スポーツ・生活科学系教育内容開発基礎研究ⅢB(住居)	1後		2			○							兼1
		スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅣB(家庭経営)	1後		2		○			1					兼1 共同
	小計(50科目)	—	0	100	0				7	3	1	0	0	兼39 —	
特別支援教育コース	コース必修科目	障害児教育の理論と実践	1前		2			○		1					兼1 オムニバス
		自立活動論	1後		2			○		1		1			兼1 オムニバス
		発達障害児教育の理論と実践	1後		2			○		1					兼1 オムニバス
		障害のある子どもの事例研究法	1前		2			○		1					兼1 オムニバス
		特別支援教育実践研究	1後		2			○		1					兼3 共同
		インクルーシブ教育論	1前		2		○								兼2 オムニバス
	コース選択科目	特別支援学校のキャリア教育と進路指導	1後		2		○			1					兼1 オムニバス
		特別支援教育コーディネーター論	1前		2		○			1		1			兼1 オムニバス
		特別支援教育の家族支援論	1後		2		○								兼2 オムニバス
		小計(9科目)	—	0	18	0				1	0	1	0	0	兼3 —
教育実習科目	学校における実習	基礎能力発展実習	1前		3				○	9	7	2			兼44
		学校教育実践研究実習	2前		3				○	9	7	2			兼44
		教育実践開発研究実習	2後		4				○	9	7	2			兼44
		メンターシップ実習	2後		4				○	9	7	2			兼44
		学校教育高度化実践研究実習	1前		3				○		1				兼1
		教育実践高度化開発研究実習	2前		3				○		1				兼1
		マネジメント実習	2後		4				○		1				兼1

教 育 課 程 等 の 概 要																
(教育学研究科教職実践開発専攻)																
科目 区分	授業科目の名称			配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教育 実習 科目	学校 にお ける 実習	特別 支援 教育 コー ース	特別支援基礎能力発展実習	1前		3				○	1		1		兼3	
			コーディネーター実習	1後		3				○	1		1		兼3	
			特別支援教育実践研究実習Ⅰ	2前		3					○	1		1		兼3
			特別支援教育実践研究実習Ⅱ	2後		4					○	1		1		兼3
	小計（11科目）			—	0	37	0	—			10	7	3	0	0	兼48 —
その 他の 実習	インターンシップ実習Ⅰ		1通年		1				○	10	7	3				
	インターンシップ実習Ⅱ		1通年		1				○	10	7	3				
	小計（2科目）			—	0	2	0	—			10	7	3	0	0	—
目 標 達 成 確 認 科 目	教職総合研究Ⅰ		1通年		2				○	9	7	2				
	教職総合研究Ⅱ		2通年		2				○	9	7	2				
	教職総合研究Ⅰ（特別支援教育）		2通年		2				○	1		1				
	教職総合研究Ⅱ（特別支援教育）		2通年		2				○	1		1				
	小計（4科目）			—	0	8	0	—			10	7	3	0	0	—
合計（121科目）				—	12	235	0	—			10	7	3	0	0	—
学位又は称号	教職修士（専門職）			学位又は学科の分野					教員養成関係							

教 育 課 程 等 の 概 要														
(教育学研究科教職実践開発専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
1. 修業年限は、原則として以下の通りとする。 ・小中高校等の教育職員免許状（一種）を取得している大学卒業および同等の有資格者は2年						1 学年の学期区分			2 期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					
2. 各コース毎に、下記の科目から修了に必要な単位として、48単位以上を取得すること。														
【教職実践高度化コース】 ・「共通領域科目」について、5領域10科目20単位取得する。 「教育課程の編成・実施に関する領域」より、「子どもの学びと教育課程経営」と「学校改善とカリキュラムマネジメント」の2科目4単位を取得する。 「教科等の実践的指導方法等に関する領域」より、「教科学習の構成と展開・評価と課題」、「教科外活動の構成と展開・評価と課題」、「情報メディアによる実践的指導方法と課題」の3科目6単位を取得する。 「生徒指導・教育相談に関する領域」より「学校カウンセリングの実践と課題」と「生徒指導の実践と課題」の2科目4単位を取得する。 「学校・学級経営に関する領域」より「学級経営の実践と課題」と「学校経営の実践と課題」の2科目4単位を取得する。 「学校教育と教員の在り方に関する領域」より「現代の教育課題と学校の社会的役割」の1科目2単位を取得する。 ・「コース必修科目」について、1科目2単位を取得する。 ・「コース選択必修科目」について、1科目2単位を選択して取得する。 ・「コース選択科目」について、各自が選択した分野から8単位を取得する。 なお、「教育行政・学校経営分野」については、現職管理職学生は、「学校と地域との連携の実践と課題」「教育コラボレーションの理論と事例演習」「スクール・リーダーシップの理論」「小中一貫教育マネジメントの実践と理論」の4科目8単位を取得する。新卒既卒学生・社会人経験学生や現職教員学生は、「教職員の職能開発とプログラム開発」「学校の危機管理の理論と事例演習A（災害対応）」「学校の危機管理の理論と事例演習B（保護者・地域住民対応）」「学校法規の理論と実務演習」「学校教育環境研究」の5科目8単位を取得する。 ・「自由選択科目」について、3コース全ての選択科目の中から4単位以上を取得する。 ・「教育実習科目」について、10単位を取得する。 新卒既卒学生・社会人経験学生・教職経験6年未満の現職教員学生は、「基礎能力発展実習」「学校教育実践研究実習」「教育実践開発研究実習」の計10単位を取得する。 教職経験6年以上の現職教員学生は、「基礎能力発展実習」「学校教育実践研究実習」「メンターシップ実習」の計10単位を取得する。 現職管理職学生は、「学校教育高度化実践研究実習」「教育実践高度化開発研究実習」「マネジメント実習」の計10単位を取得する。 ・「目標達成確認科目」について、2単位を取得する。 学部新卒既卒学生・社会人経験学生は、「教職総合研究Ⅱ」の2単位を取得する。 現職教員学生・現職管理職学生は、「教職総合研究Ⅰ」の2単位を取得する。														

教 育 課 程 等 の 概 要														
(教育学研究科教職実践開発専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
			<p>【教科領域指導力高度化コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「共通領域科目」について、5領域10科目20単位取得する。 「教育課程の編成・実施に関する領域」より、「子どもの学びと教育課程経営」と「学校改善とカリキュラムマネジメント」の2科目4単位を取得する。 「教科等の実践的指導方法等に関する領域」より、「教科学習の構成と展開・評価と課題」、「教科外活動の構成と展開・評価と課題」、「情報メディアによる実践的指導方法と課題」の3科目6単位を取得する。 「生徒指導・教育相談に関する領域」より「学校カウンセリングの実践と課題」と「生徒指導の実践と課題」の2科目4単位を取得する。 「学校・学級経営に関する領域」より「学級経営の実践と課題」と「学校経営の実践と課題」の2科目4単位を取得する。 「学校教育と教員の在り方に関する領域」より「現代の教育課題と学校の社会的役割」の1科目2単位を取得する。 「コース必修科目」について、3科目6単位を取得する。 「コース選択科目」について、6単位を取得する。 「自由選択科目」について、3コース全ての選択科目の中から4単位以上を取得する。 「教育実習科目」について、10単位を取得する。 新卒既卒学生・社会人経験学生・教職経験6年未満の現職教員学生は、「基礎能力発展実習」「学校教育実践研究実習」「教育実践開発研究実習」の計10単位を取得する。教職経験6年以上の現職教員学生は、「基礎能力発展実習」「学校教育実践研究実習」「メンターシップ実習」の計10単位を取得する。 「目標達成確認科目」について、2単位を取得する。 学部新卒既卒学生・社会人経験学生は、「教職総合研究Ⅱ」の2単位を取得する。現職教員学生は、「教職総合研究Ⅰ」の2単位を取得する。 <p>【特別支援教育コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「共通領域科目」について、5領域10科目20単位取得する。 「教育課程の編成・実施に関する領域」より、「特別支援学校の教育課程とカリキュラムマネジメント」と「学校改善とカリキュラムマネジメント」の2科目4単位を取得する。 「教科等の実践的指導方法等に関する領域」より、「障害児アセスメントと個別の指導計画」、「特別支援教育の教科・領域の構成と展開・評価と課題」、「情報メディアによる実践的指導方法と課題」の3科目6単位を取得する。 「生徒指導・教育相談に関する領域」より「学校カウンセリングの実践と課題」と「生徒指導の実践と課題」の2科目4単位を取得する。 「学校・学級経営に関する領域」より「学級経営の実践と課題」と「特別支援学校・学級経営の実践と課題」の2科目4単位を取得する。 「学校教育と教員の在り方に関する領域」より「現代の教育課題と学校の社会的役割」の1科目2単位を取得する。 「コース必修科目」について、6科目12単位を取得する。 「自由選択科目」について、3コース全ての選択科目の中から4単位以上を取得する。 「教育実習科目」について、10単位を取得する。 学部新卒既卒学生・社会人経験学生は「特別支援基礎能力発展実習」及び「特別支援教育実践研究実習Ⅰ・Ⅱ」の10単位を取得する。 現職教員学生は、「コーディネーター実習」「特別支援教育実践研究実習Ⅰ・Ⅱ」の10単位を取得する。 「目標達成確認科目」について、2単位を取得する。 学部新卒既卒学生・社会人経験学生は、「教職総合研究Ⅱ（特別支援教育）」の2単位を取得する。 現職教員学生は、「教職総合研究Ⅰ（特別支援教育）」の2単位を取得する。 											

教育課程等の概要												基礎となる学部				
(教育学部学校教育課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
設 大 学 が 独 自 に	保健体育科教育法Ⅲ 保健体育科教育法基礎 保健体育科教育実践研究	3後 2前 2後		2 2 2		○ ○ ○			1 1 1		2 2			兼1 兼1		
	小中一貫授業研究 (体育)	3後		2		○		1								
小計 (29科目)			0	42	0	-			2	0	3	0	0	兼2		
中 主 免 専 攻 専 門 科 目 (技 術 専 修)	教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	木材加工学概論 (製図及び実習を含む。)	1後	2		○		1								
		木材加工実習法	3前	2		○		1								
		木材加工実習	2前	1		○		1								
		木材加工学演習	2前	2		○		1								
		金属加工法 (製図及び実習を含む。)	2前	2		○									兼1	
		加工システム実習 (工学部 開講科目)	2後	1				○							兼1	
		基礎製図	1前	2				○		1						
		機械工学概論 (実習を含む。)	1前	2		○									兼1	
		機械設計システム特別講義Ⅰ (工学部 開講科目)	1前	2		○									兼1	
		機械学実習 (工学部 開講科目)	2後	1				○							兼1	
		材料力学基礎 (工学部 開講科目)	4後	2			○				1				兼1	
		電気工学概論 (実習を含む。)	1前	2			○				1					
		電気電子工学	2前	2			○				1					
		電気工作実習	2後	1					○		1					
		電気回路演習	3後	2				○			1					
		電気応用実験	3後	1					○		1					
		栽培学概論 (実習を含む。)	1後	2			○								兼1	
		農場実習	3前	1					○						兼1	
		情報処理学 (実習を含む。)	2後	2			○								兼1	
		情報科学実習	3前	1					○						兼1	
職業指導	2前	2				○							兼1			
技術科教育法Ⅰ	3前	2				○		1								
技術科教育法Ⅱ	3前	2				○										
技術科教育法Ⅲ	3後	2				○			1							
技術科教育法基礎	2前	2					○		1							
技術科教育実践研究	2後	2					○		1							
小計 (27科目)			0	47	0	-			1	1	0	0	0	兼7		
中 主 免 専 攻 専 門 科 目 (家 庭 専 修)	教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	家庭経営学 (家族関係学及び 家庭経済学を含む。)	1前	2		○			1							
		家族生活学	1後	2		○			1						兼1	
		ジェンダーと法	4前	2		○									兼1	
		被服学 (被服製作実習を含む。)	1前	2		○									兼1	
		被服学基礎実習	2前	2				○							兼1	
		被服学応用実習	2後	1				○							兼1	
		被服材科学	1後	2			○								兼1	
		被服学実験	3前	1				○							兼1	
		食物学 (栄養学・食品学及び 調理実習を含む。)	1後	2			○			1						
		栄養の生活科学	2前	2			○			1						
		調理学実習	1前	2			○		○	1						
		食物学実習	3後	1				○		1						
		食物学実験	3後	1				○		1						
		住居学(製図を含む。)	1前	2			○			1						
		設計製図実習	1後	2				○		1						
		住居学実験	2前	1				○		1						
		居住福祉論	2後	2				○		1						
		住居学実習	3前	1				○		1						
		保育学 (実習及び家庭看護を含む。)	2前	2				○		1						
		子ども生活論	2後	2					○	1						
家庭電気・機械	2後	2					○						兼1			
情報処理学	2後	2				○							兼1			
中等家庭科教育法Ⅰ	3前	2				○							兼1			
中等家庭科教育法Ⅱ	3前	2				○		1								
中等家庭科教育法Ⅲ	3後	2				○			1				兼1			
家庭科教育法基礎	2前	2					○		1				兼1			
家庭科教育実践研究	2後	2					○	2	1							

教育課程等の概要											基礎となる学部								
(教育学部学校教育課程)																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
発達支援教育コース専攻 子ども理解専攻専門科目	子どもの発達と教育支援	1後	2			○			1	3	3								
	発達心理学 教育心理学演習 発達心理学演習 教育心理学実験 教育心理学研究法Ⅰ 教育心理学研究法Ⅱ	発達心理学	1前	2			○											兼1	
		教育心理学演習	1前	1				○				1						兼1	
		発達心理学演習	1後	1					○										
		教育心理学実験	2前	1						2		1							
		教育心理学研究法Ⅰ	3前	1						2		1							
	教育心理学研究法Ⅱ	3後	1						2		1								
	道徳、総合的指導 子どもの発達、時間的関係等に関する指導	学校教育の臨床心理学	2前	2			○				2								
		教育心理アセスメント	2前	2			○				1								
		教育臨床心理学演習Ⅰ	2前	1				○			1								
		教育臨床心理学演習Ⅱ	2後	1				○			1								
	独立学習が 目的とする	教育統計法	2後	2			○				2		1						
		保育内容(健康) 保育内容(人間関係) 保育内容(環境) 保育内容(言葉) 保育内容(表現) 幼児の理解と教育相談 幼稚園観察実習 幼稚園教育実習	保育内容(健康)	2後	2			○											兼1
	保育内容(人間関係)		3前	2			○											兼1	
	保育内容(環境)		2前	2			○												
保育内容(言葉)	1後		2			○													
保育内容(表現)	1後		2			○													
幼児の理解と教育相談	2前	2			○				1										
幼稚園観察実習	2通	1				○			4	6	3						兼2		
幼稚園教育実習	4前	2				○			4	6	3						兼2		
小計(20科目)			0	32	0		—		5	8	6	0	0				兼7		
特別支援教育専攻専門科目	論理基礎 知的障害者の生理・病理 知的障害者の心理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 障害児アセスメント 障害児教育課程 知的障害児教育 肢体不自由児教育 病弱児教育 特別支援学級経営 障害児指導法A(前期) (障害児教育) 障害児指導法A(後期) (障害児教育) 障害児指導法B(前期) (障害児生理・病理) 障害児指導法B(後期) (障害児生理・病理) 障害児指導法C(前期) (障害児心理) 障害児指導法C(後期) (障害児心理) 特別支援基礎実践Ⅰ 特別支援基礎実践Ⅱ	障害児教育学総論	1前	2			○						1						
		知的障害者の生理・病理	1前	2			○												
		知的障害者の心理	1後	2			○												
		肢体不自由者の心理・生理・病理	2前	2			○			1									
		病弱者の心理・生理・病理	2後	2			○					1		1					
		障害児アセスメント	2前	2			○							1					
		障害児教育課程	1後	2			○												
		知的障害児教育	3前	2			○												
		肢体不自由児教育	2後	2			○			1		1							
		病弱児教育	3後	2			○							2					
		特別支援学級経営	3前	2			○												
		障害児指導法A(前期) (障害児教育)	3前	1				○			1				1				
		障害児指導法A(後期) (障害児教育)	3後	1				○							1				
		障害児指導法B(前期) (障害児生理・病理)	3前	1				○				1							
		障害児指導法B(後期) (障害児生理・病理)	3後	1				○				1							
障害児指導法C(前期) (障害児心理)	3前	1				○			1				1						
障害児指導法C(後期) (障害児心理)	3後	1				○			1				1						
特別支援基礎実践Ⅰ	2通	1					○		1	1	1								
特別支援基礎実践Ⅱ	3通	1					○		1	1	1								
発達障害児の指導と支援 重複障害児教育 視覚障害教育総論 聴覚障害教育総論	発達障害児の指導と支援	2後	2			○													
	重複障害児教育	3後	2			○			1		1								
	視覚障害教育総論	2前	1			○												兼1	
	聴覚障害教育総論	3後	1			○					1								
実践教育に 関する科目	特別支援学校観察実習	2通	1				○		4	6	3							兼2	
	特別支援学校教育実習	4前	2				○		4	6	3							兼2	
小計(25科目)			0	39	0		—		5	7	4	0	0				兼3		
その他	地理・歴史科教育法	3前	2			○					1								
	公民科教育法	3後	2			○												兼1	
	工業科教育法	2通	4			○				1									
小計(3科目)			0	8	0		—		0	2	0	0	0				兼1		
卒業研究	卒業論文	4通	4				○		22	22	9	0	0	0	0			—	
	小計(1科目)	—	4	0	0		—		22	22	9	0	0	0	0			—	
合計(575科目)			—	34	979	0	—		22	22	9	0	0	0	0		兼124		
学位又は称号	学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係													

教育課程等の概要												
(教育学部学校教育課程)										基礎となる学部		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	
卒業要件及び履修方法						授業期間等						
1. 修業年限は、原則として4年間とする。						1 学年の学期区分		2 期				
						1 学期の授業期間		1 5 週				
						1 時限の授業時間		9 0 分				
2. 各コース・専攻毎に、下記の科目から卒業に必要な単位として、137単位以上を取得すること。												
<p>【小中一貫教育コース小主免専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎教育科目」について、36単位取得する。 ・「教科及び教科の指導法に関する科目」について59単位を取得する。 ・「教育の基礎的理解に関する科目」について10単位取得する。 ・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」について11単位取得する。 ・「教育実践に関する科目」について11単位を取得する。 ・「大学が独自に設定する科目」について4単位を取得する。 ・「コース・専攻専門科目」について2単位を取得する。 ・「卒業論文」の4単位を取得する。 												
<p>【小中一貫教育コース中主免専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎教育科目」について、36単位取得する。 ・「教科及び教科の指導法に関する科目」について56単位を取得する。 ・「教育の基礎的理解に関する科目」について10単位取得する。 ・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」について11単位取得する。 ・「教育実践に関する科目」について11単位を取得する。 ・「大学が独自に設定する科目」について6単位を取得する。 ・「コース・専攻専門科目」について3単位を取得する。 ・「卒業論文」の4単位を取得する。 												
<p>【教職実践基礎コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎教育科目」について、36単位取得する。 ・「教科及び教科の指導法に関する科目」について41単位を取得する。 ・「教育の基礎的理解に関する科目」について10単位取得する。 ・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」について11単位取得する。 ・「教育実践に関する科目」について10単位を取得する。 ・「大学が独自に設定する科目」について4単位を取得する。 ・「コース・専攻専門科目」について21単位を取得する。 ・「卒業論文」の4単位を取得する。 												
<p>【発達支援教育コース子ども理解専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎教育科目」について、36単位取得する。 ・「教科及び教科の指導法に関する科目」について40単位を取得する。 ・「教育の基礎的理解に関する科目」について8単位取得する。 ・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」について11単位取得する。 ・「教育実践に関する科目」について7単位を取得する。 ・「大学が独自に設定する科目」について4単位を取得する。 ・「コース・専攻専門科目」について27単位を取得する。 ・「卒業論文」の4単位を取得する。 												
<p>【発達支援教育コース特別支援教育専攻】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎教育科目」について、36単位取得する。 ・「教科及び教科の指導法に関する科目」について32単位を取得する。 ・「教育の基礎的理解に関する科目」について10単位取得する。 ・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」について11単位取得する。 ・「教育実践に関する科目」について7単位を取得する。 ・「大学が独自に設定する科目」について4単位を取得する。 ・「コース・専攻専門科目」について2単位を取得する。 ・「特別支援教育に関する科目」について31単位取得する。 ・「卒業論文」の4単位を取得する。 												

教育課程等の概要													既設分			
(教育学研究科教職実践開発専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通必修科目	育成・育 領域に 関する 実践的 領域指 導方 に関する 実践的 領域指 導方	子どもの学びと教育課程経営	1前	2				○		1	2					オムニバス 共同
		学校改善とカリキュラムマネジメント	1後	2				○				1			兼1	共同
	法教 等科 に関 する 実践 的領 域指 導方	教科学習の構成と展開・評価と課題	1前	2				○		4	2				兼1	オムニバス 共同
		教科外活動の構成と展開・評価と課題	1後	2				○		1	1	1			兼1	オムニバス 共同
		情報メディアによる実践的指導方法と課題	1前	2				○			1				兼1	共同
	育生 相談 に関 する 実践 的領 域指 導方	学校カウンセリングの実践と課題	1後	2				○		1	1				兼1	オムニバス 共同
		生徒指導の実践と課題	1前	2				○		1	1				兼1	オムニバス 共同
域管 学に 校に 関す る学 級領 域	学校経営の実践と課題	1後	2				○			1	1				共同	
	学級経営の実践と課題	1前	2				○			2	1				共同	
関員 学の 校に 関す る領 域に 関す る教	現代の教育課題と学校の社会的役割	1前	2				○				2				兼2	オムニバス
小計（10科目）		—	20	0	0		—		6	6	3	0	0	兼7	—	
コース選択科目	学校・ 学級 経営 コース	学校組織マネジメントと評価	1前	2				○		1	1					共同
		教職員の職能開発とプログラム開発	1後	2				○			1	1				共同
		学校の危機管理の理論と事例演習	1前	2					○		1	1				共同
		学校法規の理論と実務演習	1前	2					○		1	1				共同
	学級 経営 関係	児童生徒を生かす学級の教育環境づくり	1前	2				○			3					オムニバス
		特別活動の指導と児童生徒を生かす学級づくり	1後	2				○			2					共同
	学校 教育 環境	学校教育環境研究	1前	2				○								兼1
学社融合の理論と実践		1後	2					○							兼1	
小計（8科目）		—	0	16	0		—		0	3	1	0	0	兼2	—	

教育課程等の概要													既設分				
(教育学研究科教職実践開発専攻)																	
科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース 選択科目	生徒指導・教育相談コース	カウンセリングの理論とスキル開発Ⅰ（いじめ等への対応法）	1前		2		○			1	1					兼1	オムニバス共同
		カウンセリングの理論とスキル開発Ⅱ（問題行動への対応）	1後		2		○			1	1					兼1	オムニバス共同
		発達障害児への教育的支援とコンサルテーション	1後		2		○					1				兼1	オムニバス共同
		予防・開発的な生徒指導の理論とスキル開発	1後		2		○			1	1						共同
		子どもの個別課題への対応と関係機関との連携	1前		2			○		1	1						共同
		幼保小接続の支援プログラムの開発	1通年		2			○		1							
	シヨムニスケル	家庭教育支援・連携プログラムの理論とスキル開発	1通年		2			○		1	1						共同
	特別支援教育	特別支援教育の理論と実際	1前		2			○								兼2	オムニバス
	小計（8科目）			—	0	16	0	—			1	1	1	0	0	兼4	—
	教育課程・学習開発コース	カリキュラム開発研究	教育課程編成の理論と方法	1前		2		○			1					兼1	共同
教育課程編成実務演習			1後		2			○		2	1					オムニバス共同	
学習開発基礎研究		授業実践研究	1前		2		○				2					オムニバス共同	
		学習環境研究	1後		2			○			2					オムニバス共同	
		情報メディア教育開発研究	1後		2			○			1				兼1	共同	
学習開発実践研究		道徳教育開発研究	1後		2			○		1	1						共同
		特別活動学習開発研究	1前		2			○							兼1		
		総合・生活系学習開発研究	1後		2			○		1	1					オムニバス共同	
		言語教育系学習開発研究	1前		2			○				1			兼2	共同	
		理数教育系学習開発研究	1後		2			○			1				兼2	共同	
	社会認識教育系学習開発研究	1前		2			○		1					兼1	共同		
	芸術教育系学習開発研究	1後		2			○			2					共同		
スポーツ・生活科学教育系学習開発研究	1前		2			○		2					兼1	共同			
小計（13科目）			—	0	26	0	—			7	4	1	0	0	兼9	—	

教育課程等の概要													既設分	
(教育学研究科教職実践開発専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教科領域教育実践開発コース	教科領域授業研究	1前		2			○		4	2				共同
	教科領域授業開発研究	1前		2			○		4	1				兼1 オムニバス共同
	教科領域内容開発研究	1前		2			○		3	1	1			兼1 オムニバス共同
	言語教育系授業研究	1後		2			○			1				兼2 共同
	理数教育系授業研究	1後		2			○		1	1				兼2 共同
	社会認識教育系授業研究	1後		2			○		1					兼1 共同
	芸術教育系授業研究	1後		2			○		2					共同
	スポーツ・生活科学教育系授業研究	1後		2			○		1					兼2 共同
	言語教育系授業開発研究	1後		2			○			1				兼2 共同
	理数教育系授業開発研究	1後		2			○		1					兼4 共同
	社会認識教育系授業開発研究	1後		2			○		1					兼2 共同
	芸術教育系授業開発研究	1後		2			○		2					兼1 共同
スポーツ・生活科学教育系授業開発研究	1後		2			○		2					共同	

教育課程等の概要													既設分					
(教育学研究科教職実践開発専攻)																		
科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
コース 選択科目	教科領域教育実践開発コース	教科領域の教育内容開発に関する研究	言語教育系内容開発研究	1後	2			○			1				兼3	オムニバス共同		
			理数教育系内容開発研究	1後	2			○			1					兼2	共同	
			社会認識教育系内容開発研究	1後	2			○			1					兼2	オムニバス共同	
			芸術教育系内容開発研究	1後	2			○			2					兼2	共同	
			スポーツ・生活科学教育系内容開発研究	1後	2			○			1					兼1	共同	
			言語教育系内容開発基礎研究ⅠA(国語学)	1前	2			○									兼2	オムニバス共同
			言語教育系内容開発基礎研究ⅠB(米文学)	1前	2			○									兼2	共同
			言語教育系内容開発基礎研究ⅡA(国文学)	1後	2			○									兼2	オムニバス共同
			言語教育系内容開発基礎研究ⅡB(英文学)	1後	2			○									兼2	オムニバス共同
			言語教育系内容開発基礎研究ⅢA(古典)	1前	2			○				1					兼2	オムニバス共同
			理数教育系内容開発基礎研究ⅠA(代数学)	1前	2					○		1					兼1	共同
			理数教育系内容開発基礎研究ⅠB(物理学)	1前	2					○		1					兼2	オムニバス共同
			理数教育系内容開発基礎研究ⅡA(幾何学)	1後	2					○							兼1	
			理数教育系内容開発基礎研究ⅡB(化学)	1後	2					○							兼3	オムニバス共同
			理数教育系内容開発基礎研究ⅢA(解析学・応用数学)	1前	2					○		1					兼2	共同
			理数教育系内容開発基礎研究ⅢB(生物学・地学)	1後	2					○		1					兼4	オムニバス共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅠA(人文地理学)	1前	2					○							兼2	オムニバス共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅠB(自然地理学)	1後	2					○		1					兼1	共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅠB(歴史学)	1後	2					○							兼3	共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅡA(経済学)	1前	2					○		1					兼1	共同
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅡB(地域経済学)	1後	2					○							兼1	
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅡC(法学・政治学)	1後	2					○		1						
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅢA(社会学)	1前	2					○		1						
			社会認識教育系内容開発基礎研究ⅢB(倫理学)	1後	2					○		1					兼1	共同

教育課程等の概要													既設分					
(教育学研究科教職実践開発専攻)																		
科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
コース 選択科目	教科領域 教育実践 開発コース	教科領域 の教育 内容 開発 に関する 研究	芸術教育系内容開発基礎研究ⅠA(声楽)	1前		2		○			1					兼1	オムニバス 共同	
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅠB(美術・平面表現)	1前		2		○			1						兼2	共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅡA(器楽・合奏)	1後		2			○		1						兼2	オムニバス 共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅡB(美術・立体表現)	1後		2			○		1						兼1	オムニバス 共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅢA(音楽理論)	1前		2		○			1						兼1	共同
			芸術教育系内容開発基礎研究ⅢB(造形鑑賞)	1後		2			○		1						兼1	共同
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠA(身体能力形成)	1前		2			○		1						兼1	オムニバス 共同
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠB(食物・保育)	1前		2			○		1						兼1	オムニバス
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠC(技術)	1前		2			○								兼2	オムニバス
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅡA(競争スポーツ)	1後		2				○	1						兼1	オムニバス 共同
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅡB(被服)	1後		2				○							兼1	
			スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅡC(栽培)	1後		2				○							兼1	
	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅢA(保健)	1前		2			○		1									
	スポーツ・生活科学系教育内容開発基礎研究ⅢB(住居)	1後		2				○							兼2	共同		
	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅣB(家庭経営)	1後		2			○		1						兼1	共同		
	小計(52科目)			—	0	104	0	—			7	3	1	0	0	兼38	—	

教育課程等の概要													既設分			
(教育学研究科教職実践開発専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育実習科目	学校における実習	基礎能力発展実習	1前		3				○		9	7	2			兼41
		学校教育実践研究実習	2前		3				○		9	7	2			兼41
		教育実践開発研究実習	2後		4				○		9	7	2			兼41
		メンターシップ実習	1前		4				○		9	7	2			兼41
		小計（4科目）	—	0	14	0			—		9	7	2	0	0	兼41
その他の実習		インターンシップ実習Ⅰ	1通年		1				○		9	7	3			
		インターンシップ実習Ⅱ	1通年		1				○		9	7	3			
		小計（2科目）	—	0	2	0			—		9	7	3	0	0	—
目標達成確認科目		教職総合研究Ⅰ	1通年		2				○		9	7	2			
		教職総合研究Ⅱ	2通年		2				○		9	7	2			
		小計（2科目）	—	0	4	0			—		9	7	2	0	0	—
合計（99科目）			—	20	182	0			—		9	7	3	0	0	—
学位又は称号	教職修士（専門職）			学位又は学科の分野			教員養成関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
1. 修業年限は、原則として以下の通りとする。 ・小中高校等の教育職員免許状（一種）を取得している大学卒業および同等の有資格者は2年 2. 下記の科目から修了に必要な単位として、48単位以上を取得すること。 ・「共通必修科目」について、20単位取得する。 ・「コース選択科目」について、各コース毎にコースが認める科目から12単位、4コースの全ての選択科目から4単位以上を取得する。 ・「教育実習科目」について、10単位を取得する。 ・「教職総合研究」について、2単位を取得する。							1 学年の学期区分		2 期							
							1 学期の授業期間		15 週							
							1 時限の授業時間		90 分							

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通領域科目 教育課程の編成・実施に関する領域	子どもの学びと教育課程経営	<p>(概要)</p> <p>子どもの学びの創造に資する教育課程の編成と実施の課題と条件について教育方法の観点から理解し、この観点から教育課程を構想し、教育課程の基本原則と実践的課題について教育課程の編成・実施・評価の各局面にわたって理解するとともに、効果的な教育課程経営の具体的手立てを構想することを目的とする。子どもの学びと教育課程経営の媒介として、子ども虐待、道徳の教科化、学習集団づくり、授業研究を中心に取扱う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(8 桜木香子/4回担当)</p> <p>道徳が教科となり、道徳授業の指導の質的転換・向上が求められている。本講義では、道徳教育に関する本質論、発達論を踏まえた上で、教科化における評価の意義、教材分析に基づいた道徳の授業づくりについて、具体的に学習する。</p> <p>(14 竹内元/9回担当)</p> <p>子ども虐待、主体的で対話的で深い学び、教科の特性を活かした学習集団づくり、社会の変化と学校改善の課題に関する講義を行う。</p> <p>(14 竹内元・17 安影亜紀/1回担当)</p> <p>「主体的で対話的で深い学び」が求められる中で、教科の特性をふまえた教材解釈に基づく発問づくりのあり方や教師の指導性を検討する。</p> <p>(17 安影亜紀/1回担当)</p> <p>教育課程編成の実際として、新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて、教育課程編成の基本的な考え方の理解を深める。学年会を想定したグループに分かれてキャリア教育の年間指導計画を作成する活動を通して、キャリア教育と教科・領域の関連を明らかにすると共に、教育課程の具体的な編成過程を理解する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	特別支援学校の教育課程とカリキュラムマネジメント	<p>(概要)</p> <p>学習指導要領改訂の変遷及び新学習指導要領改訂の基本的な方向性や学習指導要領の「教育目標」、「教育課程の編成」、「自立活動」について講義する。さらに、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の教育課程や指導に関する論文を講読し、議論する。また、特別支援学校のカリキュラムマネジメントの基本的な考え方に関する講義や事例紹介、年間計画の作成及び発表などの演習を通じて、理論的基盤を堅め、実践力の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(18 武富志郎/5回担当)</p> <p>特別支援学校のカリキュラムマネジメントに関する講義・演習を行う。</p> <p>(65 半田健/5回担当)</p> <p>知的障害教育・肢体不自由教育・病弱教育における教育課程と指導に関する講義・演習を行う。</p> <p>(66 権倍珍/5回担当)</p> <p>特別支援学校の教育課程及び学習指導要領の変遷と内容について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式
	学校改善とカリキュラムマネジメント	<p>(概要)</p> <p>後述するテキストに示された学校レベルでの教育改革実践の記録を読み、入念に検討する作業を通して、学校改善とカリキュラムマネジメントにかかわる今日的な諸問題を取り扱う。</p> <p>基本的な流れは次のとおりである。受講生を班に分け、各班が順番にレポーターを担当する。レポーターはテキスト担当部分についてレジュメを作成し、授業中に報告するとともに、その内容についての疑問点、異論・反論等を提示し、問いの形で他の受講生に投げかけ、全員が参加するような討論を組織する。最後に授業担当者による解説や講評を行う。</p> <p>その他、カリキュラムマネジメントや校内研究に関する講義を挟むことにより、学校改善に資するカリキュラムマネジメントへの理解を促すとともに、現職院生の所属校（過去の勤務校を含む）のカリキュラムマネジメントについての報告を通じて、カリキュラムマネジメントに対する理解を深める。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(20 中野通彦/15回担当)</p> <p>学校改善とカリキュラムマネジメントや校内研修に関する、現場経験を踏まえた講義と演習を行う。</p> <p>(58 遠藤宏美/15回担当)</p> <p>学校改善とカリキュラムマネジメントに関する、研究の動向や研究成果をもとにした講義と演習を行う。</p>	共同
教科等の実践的指導方法等に関する領域	教科学習の構成と展開・評価と課題	<p>(概要)</p> <p>・学校教育の捉え方によって、教科領域の類型や目標が異なることを理解するとともに、類型の違いによる各教科の目標・内容・方法等の違いを分析する。</p> <p>・実践や事例を通して、わが国の公教育の考え方の変遷による各教科の性格、目標、内容構成、学習方法の特徴の変化を討議し、把握する。</p> <p>・現職教員学生と学部新卒学生に分かれて、今日の教育の新しい動向を視野に入れた授業づくりと評価案を作成する。授業づくり・評価案のプレゼンテーションとグループ討議、評価を行う。</p> <p>・教科系列に分かれて授業・評価案の修正案を作成の後、模擬授業と討議、評価を行う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(1 幸秀樹・3 吉村功太郎・5 中山迅・6 三輪佳見・12 木根主悦・15 後藤洋司/8回担当)</p> <p>美術科・社会科・理科・保健体育科・数学科の各教科の本質を踏まえた教科学習のあり方や、学校や教育行政の観点から教科学習のあり方を指導する。</p> <p>(1 幸秀樹・3 吉村功太郎・5 中山迅・6 三輪佳見・12 木根主悦・15 後藤洋司・55 東條弘子/7回担当)</p> <p>外国語（英語）授業・活動の本質をふまえた教科学習のあり方を中心に、各教科の本質を踏まえた教科学習のあり方や、学校や教育行政の観点から教科学習のあり方を指導する。</p>	オムニバス方式・共同（一部） 講義 16時間 演習 14時間

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通領域科目 教科等の実践的指導方法等に関する領域	教科外活動の構成と展開・評価と課題	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の教科化を踏まえ、子どもの道徳性の発達を促す道徳授業改善のための視点・方法を理解する。 学習指導要領を踏まえて、特別活動の意義と課題について理解し、特別活動のカリキュラム開発に関する事例を検討する。 キャリア教育について理解を深めるとともに、総合的な学習の時間等でのキャリア教育の実践事例を検討し、キャリア教育の課題や展望について理解する。 <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(8 椋木香子・14 竹内元・20 中野通彦/3回担当) 道徳の授業改善のための分析視点と方法についての講義と演習を行うとともに道徳、特別活動、総合的な学習の時間の課題と指導実践について学校教育の現場の視点からの講義を行う。</p> <p>(8 椋木香子・20 中野通彦/4回担当) 道徳の授業改善のための分析視点と方法についての講義と演習を行う。</p> <p>(14 竹内元・20 中野通彦/1回担当) 総合的な学習の時間の意義と課題、キャリア教育の現状と課題についての講義と演習を行う。</p> <p>(14 竹内元・20 中野通彦・59 盛満弥生/3回担当) 特別活動の意義と課題、特別活動のカリキュラム開発に関して講義を行うとともに道徳、特別活動、総合的な学習の時間の課題と指導実践について学校教育の現場の視点からの講義を行う。</p> <p>(20 中野通彦・59 盛満弥生/4回担当) 特別活動の意義と課題、特別活動のカリキュラム開発に関して講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	障害児アセスメントと個別の指導計画	<p>(概要)</p> <p>障害のある児童生徒の特徴やつまずきに合わせた指導計画を立てる上で重要となる種々のアセスメント方法の中でも、特に知能・学力のアセスメントについて理解を深め、アセスメント技法を習得する。また、特別支援学校・特別支援学級における個別の指導、小中学校の通常の学級における個に応じた指導と支援の実践を学び、アセスメント結果に基づいた個別の指導計画や授業計画を立てる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 戸ヶ崎泰子/10回担当) 障害のある子どもの実態把握の意義、アセスメントの領域・内容、方法について講義・演習を行う。</p> <p>(64 中井靖/5回担当) アセスメント結果をふまえた「個別の指導計画」の作成及び特別支援学校・特別支援学級での個別の指導や通常の学級での個に応じた指導と支援について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式
	特別支援教育の教科・領域の構成と展開・評価と課題	<p>(概要)</p> <p>知的障害教育を中心に、特別支援学校が直面している教育課題について理解を深め、弾力的で自由度の高い教育課程編成が可能な知的障害特別支援学校において小学部から高等部までの教育を一貫性のあるものにする工夫や教育目標・内容・指導方法・学習評価の一体化の工夫を考える。その上で、教科別の指導及び領域・教科を合わせた指導の単元計画や学習指導案を作成し、模擬授業に取り組む。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 戸ヶ崎泰子/6回担当) 特別支援学校における領域・教科を合わせた指導についての単元計画、学習指導案、模擬授業に関する指導を行う。</p> <p>(18 武富志郎/2回担当) 知的障害特別支援学校の教育課程の構造と児童生徒の発達段階等をふまえた小学部から高等部までの連続性・一貫性のある教育について講義・演習を行う。</p> <p>(65 半田健/7回担当) 特別支援学校における教科別の指導についての単元計画、学習指導案、模擬授業に関する指導を行う。</p>	オムニバス方式
	情報メディアによる実践的指導方法と課題	<p>(概要)</p> <p>情報コミュニケーション技術（ICT）や情報メディア関連技術の進展を背景にした教育の情報化及び情報教育の現状を整理した後、教科等の指導における情報メディアの実践的指導方法について解説する。また、教科等の指導場面を具体的に想定し、教育効果と教師の情報（メディア）リテラシーを検証しながら、実践的指導方法を習得させる。また、現職教員等による事例紹介を参考に、他の教師、教育委員会、地域、家庭等との連携における情報メディア活用についても整理する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(15 後藤洋司/15回担当) 教科等の具体的な指導場面における実践的指導法を中心に担当する。</p> <p>(40 新地辰朗/15回担当) 教育工学の知見をふまえた教育の情報化と情報教育の現状、実践的指導のあり方について担当する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通領域科目 生徒指導・教育相談に関する領域	生徒指導の実践と課題	<p>(概要) この科目は、先手をうつ生徒指導、つまり児童・生徒の問題行動や社会的不適応をいかに予防するかという視点から構成される。予防的生徒指導にとって重要な柱は、「心の教育」「心の健康」そして「教師と児童生徒の円滑なコミュニケーション」である。 本科目では、これらの柱を具体化するために、生徒指導の基本的な技法からスタートし、「ソーシャルスキル教育」「問題解決プログラム」「情動調整」「構成的グループエンカウンター」等の具体的な予防的介入プログラムを講義と実践演習の中で身につける。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(9 立元真・16 東迫健一/12回担当) 生徒指導の定義及び生徒指導の3機能、基本技法、問題行動への対処、QI、特別支援、問題解決、InterNet、スマホに関わる問題・長期的な生徒指導戦略に関する講義を行う。また、構成的グループエンカウンター、SST指導の演習を行う。</p> <p>(16 東迫健一・60 高橋高人/3回担当) 情動への対処の指導、問題解決、教育相談の意義と内容に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	学校カウンセリングの実践と課題	<p>(概要) 児童・生徒が抱える生徒指導上の諸問題をカウンセリングの視点から理解し、ケーススタディを通して、児童・生徒の問題行動等への適切な対応法に習熟する。本講義では、現職教員とストレートマスターによる集団討論と演習を交えて行う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(9 立元真・16 東迫健一/12回担当) 子どもの内在化問題、外在化問題、カウンセリングの基本技法、発達検査、発達障害、コンサルテーション、コーディネーションに関する講義を行うとともに、講義内容に関して学校教育現場の事例を提示して演習・討論を行う。</p> <p>(16 東迫健一・62 境泉洋/3回担当) 行動理論、認知行動理論に基づいた子どもの行動の理解に関する講義を行うとともに、講義内容に関して学校教育現場の事例を提示して演習・討論を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
学校・学級経営に関する領域	学級経営の実践と課題	<p>(概要) 学級経営の実践について事例研究を行い、実地調査やワークショップ等の方法を通して、学級経営計画の企画・立案、実施、点検・評価、改善という学級経営サイクルの観点から、学級経営の実践と課題について分析し改善の方策を検討・検証する。 本演習は、「朝の会」「学級通信の意義」「テーマに沿った説明」「グループワーク」「総括」「帰りの会」の6つで構成する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(13 湯田拓史/15回担当) 学級経営を進める上に必要な計画の立て方ツツール（Q-U）や保護者連携について、演習形式で指導する。</p> <p>(15 後藤洋司/15回担当) 学級経営を進める上で欠かせぬ教員としての姿勢や習慣を指導し、授業全体の構成と司会を担当する。</p> <p>(71 山本真司/15回担当) 学級経営に欠かせない「学級通信」の作成を指導し、制作物の評価を行う。</p>	共同
	学校経営の実践と課題	<p>(概要) 学校経営の基礎理論についての理解に基づき、自律的学校経営並びに参加型学校経営の実現に向けて実践的な課題の分析と解決の方策について検討する。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(13 湯田拓史/15回担当) 教育行政と学校経営との関連性について、具体的な事例を通じて講義形式で指導する。</p> <p>(71 山本真司/15回担当) 宮崎県内の教育行政課題とそれに対する対処策を事例を基に演習形式で指導する。</p>	共同
	特別支援学校・学級経営の実践と課題	<p>(概要) 特別支援学校の学級経営の実践について事例研究を行い、ワークショップ等の演習を通して、学級経営サイクル（企画・立案、実施、点検・評価、改善）の観点から学級経営の実践と課題について分析し、改善の方策を検討・検証する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 戸ヶ崎泰子/4回担当) 学級作りの基本（学級作りのための実態把握、個別の指導計画の作成）と学級経営上の諸課題への対応（保護者との連携、地域社会との連携等）について講義・演習を行う。</p> <p>(18 武富志郎/6回担当) 学級経営上の課題の明確化と学級経営案の設計について講義・演習を行う。</p> <p>(65 半田健/5回担当) 学級経営案の設計と学級経営上の諸課題への対応（指導が困難な児童生徒への指導の在り方、いじめ、けが、事故、災害等への備え）について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通領域科目 学校教育と教員の在り方に関する領域	現代の教育課題と学校の社会的役割	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校とはどのような教育施設か、その基本的特質を考える。とくに塾と対比し、その異同を検討する。その上で学校が果たすべき公共的役割を把握する。この把握をふまえて、わが国の現代社会（少子化の進行を含む）との関連で、学校教育の諸課題（特別支援教育の課題をも含む）について指摘する。 学校の社会的役割を生業学習の観点から把握する。とくに（1）学社融合の考え方とその実践、（2）地域の教育資源の活用、（3）地域貢献など、について理解する。 以上の検討をふまえて、教員の職業倫理について諸側面から明らかにする。教師としての使命感は、どのように規定できるか、その概念を理念的に認識するとともに、今日の社会から、どのような教師像が期待されているか、なぜ要請されているか、について、教員を採用・研修を担う自治体資料を手がかりに検討する。その上で、学校組織のなかでどのような職務行動として実現されるべきか、について教員人事評価制度を紹介しつつ理解する。とくに事例研究や現職教員とストレートマスターのグループに分かれた討議、ロールプレイを通じて解明する。 以上をふまえて、現代社会の変化と関連した学校のあり方をグループに分かれて協議し、構想し、その結果についてプレゼンテーションを行う。 <p>(オムニバス／全15回)</p> <p>(18 武富志郎／2回担当) 特別支援教育を含む学校教育の現状と政策的諸課題について講義を行う。</p> <p>(20 中野通彦／2回担当) 求められる教師像にかかわる教員研修・評価等の在り方について、講義と演習を行う。</p> <p>(41 河原国男／4回担当) 学校の基本的役割、現代社会の変化との関連で求められる学校の教育課題と実践事例、教員の職業倫理に関する理論と実践例、について講義と演習を行う。</p> <p>(61 高橋利行／7回担当) 学校の社会的役割を生業学習の観点から講義・演習を行うとともに、現代社会の変化と関連した学校のあり方に関するプレゼンテーションを演習形式で指導する。</p>	オムニバス方式
コース科目 教職実践高度化コース	現代の教育課題と教育実践	<p>(概要)</p> <p>現代の子ども・学校を取り巻くさまざまな教育課題の背景にある社会状況及び国際的な教育動向を踏まえ、その課題解決に向けて「学校・学級経営」、「生徒指導・教育相談」、「教育課程・授業研究」の3つの視点から複合的にアプローチすることの意義を理解するとともに、先進的な実践事例の検討や学校教育及び諸関係機関の取り組み状況の視察など、討議やフィールドワークを通して学習し、教育実践上の諸課題に対して協働して解決策を構想する。</p> <p>(共同方式／全15回)</p> <p>(8 椋木香子／15回担当) 教育課程・授業研究がどのような役割を果たす役割についての講義を行い、教育課程・授業研究に関わる関係機関を訪問学習を主導する。</p> <p>(9 立元真／15回担当) 生徒指導・教育相談の活動の果たす役割についての講義を行い、生徒指導・教育相談に関わる関係機関での訪問学習を主導する。</p> <p>(13 湯田拓史／15回担当) 教育行政と学校経営との関連性について、具体的な事例を通じて講義形式で指導する。</p> <p>(14 竹内元／15回担当) 教育課程・授業研究がどのような役割を果たす役割についての講義を行い、教育課程・授業研究に関わる関係機関を訪問学習を主導する。</p> <p>(16 東迫健一／15回担当) 生徒指導・教育相談の活動の果たす役割についての講義を行い、生徒指導・教育相談に関わる関係機関での訪問学習を主導する。</p> <p>(17 安影亜紀／15回担当) 学校・学級経営がどのような役割を果たす役割についての講義を行い、学校・学級経営に関わる関係機関や先進校での訪問学習を主導する。</p> <p>(58 遠藤宏美／15回担当) 教育課程・授業研究がどのような役割を果たす役割についての講義を行い、教育課程・授業研究に関わる関係機関を訪問学習を主導する。</p> <p>(59 盛満弥生／15回担当) 教育課程・授業研究がどのような役割を果たす役割についての講義を行い、教育課程・授業研究に関わる関係機関を訪問学習を主導する。</p> <p>(71 山本真司／15回担当) 宮崎県内の教育行政課題とそれに対する対処策を事例を基に演習形式で指導する。</p>	共同
コース選択必修科目	授業研究と教師の成長	<p>(概要)</p> <p>さまざまな教育改革動向と学習指導要領の改訂をふまえて、授業力の向上を図る授業研究を中心とした校内研修の意義と具体的な方法について、具体的な事例を交えながら多角的に理解することを目的とする。日々の授業実践や学校改善に活かすことができる校内研修のあり方を考えると同時に、「授業力」や「関係性」に込められた日々の教育実践と教師の力量形成の関係を構造的に理解する。</p> <p>(オムニバスと共同方式／全15回)</p> <p>(13 湯田拓史・17 安影亜紀／2回担当) 校内研修の変遷を説明し、OJTを強調した校内研修の在り方を講義形式で指導するとともに、宮崎県内の教員キャリアアップや学校内外での研修との関わりを説明する。</p> <p>(14 竹内元・17 安影亜紀／13回担当) 校内研修の活性化、メンター方式による初期研修など教師の力量形成と学校づくりをテーマに、講義と演習を行う。また、育成指標を手がかりに、教師の教授行為の力量形成に関する講義と演習を行うとともに、宮崎県内の教員キャリアアップや学校内外での研修との関わりを説明する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	予防・開発的な生徒指導の理論とスキル開発	<p>(概要) この科目は、児童・生徒の問題行動や社会的不適応をいかに予防するかという視点から構成される。社会的不適応を起こす要因について学習した後、予防・開発的な視点に立った教育相談の具体的技法及び発達障害のある児童生徒への対応や指導技術を取り上げる。また、事例検討会の意義や具体的な方法について学ぶとともに、保護者との連携の在り方について探究し、個別支援に係る理論及び技能を身に付ける。さらに、問題行動等を未然に防ぐための集団づくりや学習指導の在り方についても学びを広げ、児童生徒の見立てに基づく指導計画を作成する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(9 立元真/15回担当) ストレスマネジメント、特別な支援ニーズをもつ児童生徒への指導、レジリエンス教育等の講義を行い、共同で実践演習を行う。</p> <p>(16 東迫健一/15回担当) 法教育、長期指導計画、同僚教師への技術提供についての講義を行い、共同で実践演習を行う。</p>	共同
	学校組織マネジメントと評価	<p>(概要) まず、教育改革における学校評価の導入によって組織マネジメント(学校経営の組織開発)が要請されていることを理解する。次いで、組織マネジメントと学校評価を結びつけることの重要性を指摘し、学校評価に基づく組織マネジメントの課題と解決策の工夫について理解する。最後に、学校・教育委員会・地域社会間の協働的な学校評価システムづくりと組織マネジメントの課題及び課題解決の工夫について理解し、組織マネジメントの推進のためには研修の組織化が不可欠であることを理解する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(13 湯田拓史/15回担当) 学校組織マネジメントと評価について育成指標と評価の手引きに基づきながら、実際の評価方法や評価基準を指導する。</p> <p>(71 山本真司/15回担当) 組織マネジメントの理論枠組みを指導する(湯田拓史:15回)。実際の運用の手立てを演習形式で指導する。</p>	共同
	現代の教育行財政の現状と課題	<p>(概要) 現職管理職を対象として、教育行財政学の基礎理論についての理解に基づき、教育の条件整備を進めていく上で必要な実践的な課題の分析枠組みと解決のための行政手法について検討する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(13 湯田拓史/15回担当) 国内外の教育行財政の仕組みと展開過程を講義形式で説明した後、宮崎県内の課題について演習形式で検証する。</p> <p>(71 山本真司/15回担当) 外国との比較事例、国内の動向を講義形式で説明、県内の最新動向を説明する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 教職実践高度化コース コース選択科目（教育行政・学校経営分野）	学校と地域との連携の実践と課題	(概要) 学校評議会や学校運営協議会だけではなく、拡大大学運営協議会などの実例から、単位学校を越えて中学校区や全市的な連携の取組を学ぶ。さらには社会教育部局に属する地域学校協働本部事業やキャリア教育を通じて商工会議所などの営利セクターとの連携も学ぶことで、柔軟に連携事業を進められる知識と姿勢を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (13 湯田拓史/4回担当) 地域連携の理論枠組みと行政手課題を講義形式で説明する。 (61 高橋利行/11回担当) 地域連携について実例を基に説明し、勤務校での連携の手立てを検証する。	オムニバス方式
	教育コラボレーションの理論と事例演習	(概要) 文部科学省以外の省庁に属する領域の機関や団体との協働で得られるメリットと手続き過程を最新事例から学ぶ。とくに福祉や法務や医療との協働により、「子どもの貧困」や「児童虐待」や「発達障害」に対して、関係部署との協働体制づくりに資することができる知識や姿勢を身につける。 (オムニバス方式/全15回) (13 湯田拓史/6回担当) 授業の理論枠組みの説明と組織構成の確立と関係機関との信頼構築の手立てを説明する。 (18 武富志郎/3回担当) 特別支援教育とのコラボレーションの説明を担当する。 (59 盛満弥生/3回担当) 「子どもの貧困」対応のコラボレーションの説明を担当する。 (61 高橋利行/3回担当) 社会教育領域のコラボレーションについての説明を担当する。	オムニバス方式
	スクール・リーダーシップの理論	(概要) 教員の年齢構成がアンバランスする実態を踏まえて、職種や校務分掌によって求められるリーダーシップの種類を外国の事例や国内の先行事例から学ぶ。ミドルリーダーからスクールリーダーになるに際して求められるリーダーシップとその身に付け方を認識できるようにする。「チーム学校」を展開する上で必要な、リーダーシップの集約を学ぶ一方で、リーダーシップのシェアリングも学ぶことにより、現場でリーダーシップを発揮するに際しての手立てを学ぶことができるにする。 (共同方式/全15回) (13 湯田拓史/15回担当) 学校での管理職として求められるリーダーシップについて英米の比較研究も参考に講義形式で指導する。 (71 山本真司/15回担当) 実践の場面ごとに求められるリーダーシップについて演習形式で指導する。	共同
	小中一貫教育マネジメントの実践と理論	(概要) 小中一貫・連携教育は、すでに宮崎県内をはじめとする全国の市区町村で進められている。就学者数の減少が進行する宮崎県は、先進的に施設一体型の中小一貫教育が開発され、特色あるカリキュラムを実現して先導的な役割を果たしている。他方、就学者数の減少が顕著でない地域においても、地域の実情を踏まえた、特色あるカリキュラムを実現する小中一貫校の開設が続いている。こうした学校現場の動向を考慮しつつ、学習指導要領に即した「生きる力」の育成をめざす、一貫性、系統性、連続・非連続性に留意した教育目標、教育課程、指導法、学校運営等の諸側面をどう実現するかを取り上げ、小中一貫・連携教育を積極的に推進する意欲を高め、その理論と実践の基礎を習得する。 (オムニバスと共同方式/全15回) (13 湯田拓史・71 山本真司/10回担当) 小中一貫教育の先行研究と理論枠組みを講義形式で指導するとともに、宮崎県内の実践展開過程を説明する。 (58 遠藤宏美/5回担当) 宮崎県内の先進事例の説明を担当する。	オムニバス方式・共同（一部）
	教職員の職能開発とプログラム開発	(概要) 近年の教育改革の観点から教職員の職能開発が要請される背景を指摘し、職能開発には組織マネジメントが必要であることを理解する。その上で、教職員のライフステージ及び職務内容に応じた研修プログラム開発の工夫について理解し、ケースメソッド方式の研修プログラムの開発を行う。 (共同方式/全15回) (13 湯田拓史/15回担当) 教職員の職能開発について、育成指標に基づき受講生のキャリア別に演習形式で指導する。 (71 山本真司/15回担当) 宮崎県作成の手引きを基に受講生の要望に基づいて演習形式で指導する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学研究科教職実践開発専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
コース科目 教職実践高度化コース	コース選択科目(教育行政・学校経営分野) 学校の危機管理の理論と事例演習A(災害対応)	(概要) まず、学校の危機管理・安全管理の基本事項について講義を行い、次に学校危機管理・安全管理のための学校組織マネジメントの具体的事例についての演習を行う。また災害の種類と対応について講義する。そして学校危機管理・安全管理のための計画づくりに取り組む(ワークショップ)。 (共同方式/全15回) (13 湯田拓史/15回担当) 学校における災害対応を講義形式で指導する。 (71 山本真司/15回担当) 宮崎県内の危機管理の実例の説明を演習形式で指導する。	共同	
	学校の危機管理の理論と事例演習B(保護者・地域住民対応)	(概要) 学校と保護者・地域との関係について中長期的変遷を講義する。そして、保護者や地域住民との連携のための手立てを演習形式で学ぶ。さらに学校危機管理のアカウントビリティについて、保護者、子ども、マスコミへの説明の方法と改善の工夫について検討・検証する(ロールプレイング、ワークショップ)。 (オムニバスと共同方式/全15回) (9 立元真/1回担当) 発達障害の疑いがある案件に直面した場合にとるべき手立てを演習形式で指導する。 (13 湯田拓史・71 山本真司/13回担当) 保護者や地域住民との信頼関係の構築と維持に際して発生しうるリスクを回避するための手立てを演習形式で指導するとともに、宮崎県内の現場での事例をケースメソッド方式で検討し具体的に取るべき行動を指導する。 (14 竹内元/1回担当) 授業研究を進める上で地域住民や保護者とのような関係を構築するかを演習形式で指導する。	オムニバス方式・共同(一部)	
	学校法規の理論と実務演習	(概要) 教育法規の体系と種類、教育委員会と学校の関係、学校運営と教育法規、教育課程の編成と評価、教職員の身分・人事・勤務条件、そして教育改革と学校法規の関連など、学校の運営や教育実践をめぐる法規的基礎について講義と事例研究を研究者教員と実務家教員とが分担しながら実施すると共に、現職教員とストレート院生とに分かれてグループ討議と実務演習を行う。 (共同方式/全15回) (13 湯田拓史/15回担当) 学校現場で必要な法規の説明を行い、実務での運用の実態について演習を行う。法令の説明を主として担当。 (71 山本真司/15回担当) 実務での運用の在り方について、宮崎県内の学校現場での実態説明を演習形式で指導する。	共同	
	学校教育環境研究	(概要) 今日、学校を舞台として様々な問題が生じている。これらは、個々の子どもや教師、個別の教室や学校の問題であるとともに、学校文化や組織・制度総体が生み出している問題でもある。本講義では、なぜこのような現象が社会的に生み出されるのかを主に教育社会学の立場から明らかにした上で、個々の問題を診断し、介入する手立てを探索する。授業では、毎回指定する課題図書をもとに、講義と議論を行う。		
	コース選択科目(生徒指導・教育相談分野) 生徒指導・教育相談のためのアセスメントの理論とスキル開発	(概要) 学校心理臨床場面においては、まず、問題となる心理・行動を明確にした上で、その原因を探り、解決への糸口を探っていく。この一連の過程の中で、重要な役割を担っているのが心理・教育アセスメントである。本講義においては、まず、心理・教育アセスメントの意義と全体像を理解するために実践例を詳細に報告する。その上で、心理検査の標準化の過程、活用法について知能検査を中心にその理論的背景、実施法、採点法、解釈および活用の方法について学ぶ。 (オムニバスと共同方式/全15回) (9 立元真・16 東迫健一/11回担当) 各種アセスメント技法の内容と学校現場での応用に関する講義を行う。各回の講義を踏まえた演習を行う。 (16 東迫健一・62 境泉洋/4回担当) 心理教育アセスメントの方法と学校現場での応用に関する講義を行う。	オムニバス方式・共同(一部)	
メンタルヘルスと臨床発達 の理論とスキル開発	(概要) 学校教育の場では、児童・生徒、保護者、教員をはじめとする学校職員という様々な立場の人間の生身の生態がある。この授業は、学校教育の場における、心の問題を理解し、また、心の健康を育む基盤としての臨床心理学の知見と基礎的な技法を扱う。学校で生じる心と行動の問題を理解し、多様な臨床心理学的アプローチについての知見を身につけるとともに、学校における児童生徒の問題に対して、心理臨床等の専門家や専門機関との連携も含めた対処の方法を学修する。 (オムニバス方式/全15回) (9 立元真/6回担当) QIを中心としたアセスメントの実施と解釈・応用、面接法の実施と解釈と応用、教育評価の理論と応用についての講義・演習を行う。 (60 高橋高人/5回担当) 心理検査の標準化と実施・解釈の方法、質問紙の実施と解釈・応用、についての講義講義・演習を行う。 (62 境泉洋/4回担当) 行動的アセスメントの方法、行動の機能の検討、対応の検討、検証についての講義講義・演習を行う。	オムニバス方式		

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 教職実践高度化コース コース選択科目（生徒指導・教育相談分野）	家庭教育支援・連携接続プログラムの理論とスキル開発	(概要) 家庭と学校の連携による日常の発達支援や家庭教育学級、幼保小中の環境移行場面における教育活動を前提とする。中心的な学習内容として養育スキルを扱う。そのために、ペアレントトレーニングのトレーナーレベルの技量を養成する。実践力を高めるために、般化を企図した多様なロールプレイ場面の設定と、過剰学習を意図して授業を展開する。 (オムニバスと共同方式/全8回) (9 立元真/7回担当) 保護者に提供するペアレンティングスキルに関する講義を行う。 (9 立元真・58 遠藤宏美/1回担当) 連携・接続におけるカリキュラムマネジメントに関する講義を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
	学校カウンセリング・コンサルテーション基礎実習	(概要) 児童・生徒・保護者を対象としたカウンセリングにおける傾聴技法や認知行動論的カウンセリングにおけるフォーミュレーションの技法に習熟するとともに、教育相談担当のリーダーあるいは学校心理士として学校で行われるカウンセリングや教育内容に関してコンサルテーションを行う能力を演習を繰り返す中で習得する。 (オムニバスと共同方式/全15回) (9 立元真・16 東迫健一/10回担当) カウンセリングにおける傾聴技法およびコンサルテーションの技法についての実技演習を主導するとともに各種の実技演習に際して、学校教育現場の立場から指導を行う。 (16 東迫健一・62 境泉洋/5回担当) 認知行動論的カウンセリングにおけるフォーミュレーションの技法に関する実技演習を主導するとともに各種の実技演習に際して、学校教育現場の立場から指導を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
	発達の理論とスキル開発	(概要) すでに1種の教員免許を取得しており児童期・青年期の発達の概要についての知見を持っていることを前提に、各領域の発達段階を概観したうえで、児童期・青年期の学校教育における最新の発達上のトピック（自己制御、意志力、知能感、自尊感情、社会適応、ソーシャルシンキング）への理解を深める。 (オムニバス方式/全8回) (9 立元真/4回) 学校教育の土台としての発達心理学を概説するとともに、対人関係の発達を中心に、言語の発達、ディスカッションによる思考の発達、教員として・親としての生涯発達についての講義を行う。 (70 尾之上高哉/4回) 認知・思考の発達について、児童期の自己制御の発達、意志力の発達、知能感の発達についての講義を行う。また、子どもの自尊感情の発達と揺れを中心に自尊感情についての講義を行う。	オムニバス方式
	教授・学習の理論とスキル開発	(概要) 学校教育の基盤となる教授学習に関わる理論と最新の知見に基づいて、記憶と理解、動機づけ、学習指導と授業について解説し、効果的な教授学習過程について考えていく。受講生には、各回の授業で、テキストや関連する論文の発表を求めることがある。 (共同方式/全8回) (16 東迫健一/8回担当) 記憶と理解、動機づけ、学習指導と授業、効果的な教授学習過程についての理論面を中心とした講義を行う。 (70 尾之上高哉/8回担当) 講義を踏まえて、学校現場での実用を目的として、児童・生徒の事例を提示し、それに基づいて事例演習を行う。	共同
	学校心理支援の理論とスキル開発	(概要) 学校教員であるとともに、学校心理学の担い手として、学校をとりまく様々な専門職と高度なレベルと連携するとともに、学校内で、種々の心理学の資産と理論を用いるスキルを習得する。 (共同方式/全8回) (9 立元真/8回担当) 学校心理学の定義と活動、援助サービスのモデル、チーム援助、学校における心理支援の倫理に関する講義を行う。 (16 東迫健一/8回担当) 講義を踏まえて、学校現場での実用を目的として、児童・生徒の事例を提示し、それに基づくディスカッションを主導する。	共同
	生徒指導・教育相談のスキルアップ研修プログラム	(概要) 学校教育において最も基本的な生徒指導上のスキルである、教えるスキル、不適切な行動に対する叱るスキル、児童・生徒や保護者との面談や対人関係の構築・維持のスキルを扱う。これらのスキルを基本理論から整理するとともに、同僚性の中でスキルを維持・向上させていく研修プログラムを構築・実践する技法を習得する。 (共同方式/全8回) (9 立元真/8回担当) 教えるスキル、不適切な行動に対する叱るスキル、児童・生徒や保護者との面談や対人関係の構築・維持のスキルに関する講義を行う。 (16 東迫健一/8回担当) 講義を踏まえて、学校現場での実用を目的とした指導プログラムの実践演習を主導する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 教職実践高度化コース コース選択科目（教育課程・授業研究分野）	教育課程編成の理論と方法	(概要) 本講義は、教育課程を編成するための理論について理解を深めるとともに、その方法について、学校現場で教育課程を編成していく手順を追いながら学修していく。「小学校学習指導要領解説 総則編」「中学校学習指導要領解説 総則編」に基づき、院生が分担制で準備したプレゼンテーション発表を通して協議を行い、教育課程の改善及び必要な方策等を探る。また、特色ある教育課程を編成している学校を訪問し、フィールドワークを通して今後の学校教育の方向性を見通す力を育成していく。 (共同方式/全15回) (17 安影亜紀/15回担当) 教育課程編成の具体的な方策についての協議や特色ある教育課程を編成している学校への訪問学習を主導する。 (58 遠藤宏美/15回担当) 教育課程編成の具体的な方策についての協議や特色ある教育課程を編成している学校への訪問学習を主導する。	共同
	小規模校のカリキュラムマネジメントと授業づくり	(概要) 人口減少・少子化が進行する中で増加の傾向にある小規模校（へき地校を含む）について、その特性と課題を理解してカリキュラムマネジメントに取り組むとともに、小規模校の特性を活かした授業づくりを構想する力を育むことを目的とする。講義・演習ならびに小規模校・へき地校のフィールドワークを通じて小規模校・へき地校の現状や強み・弱みを的確に把握し、教育課程編成の工夫や課題について考察するとともに、少人数学級や複式学級等の授業づくり・生徒指導のポイントを理解し、実際の授業・指導に活かすことのできる実践力を身に付ける。 (オムニバスと共同方式/全15回) (9 立元真・17 安影亜紀・58 遠藤宏美/1回担当) 小規模校における児童・生徒への心理的支援の概要についての講義を行う。 (14 竹内元・17 安影亜紀・58 遠藤宏美/5回担当) 小規模校・複式学級における授業づくりに関する講義・演習を行う。 (17 安影亜紀・58 遠藤宏美/9回担当) 小規模校の特性を生かした教育活動について、へき地校での勤務経験を基に事例を示し、講義との関連を説明する。人口減少社会における教育・学校の現状や課題に関する講義・演習を行うとともに、へき地校・小規模校のフィールドワークを行う。	オムニバス方式・共同（一部）
	教科・領域を横断する教育実践と教育方法（キャリア教育を含む）	(概要) 教科・領域を横断する教育実践と教育方法について、実践事例の検討やフィールドワークなどを通して学習する。特に、総合的な学習の時間等におけるキャリア教育の在り方や、協働する力・問題解決能力の育成方法について検討する。 (共同方式/全15回) (8 椋木香子/15回担当) 総合的な学習の時間等におけるキャリア教育実践事例や、教科・領域を横断して協働する力や問題解決能力を育成する実践について検討する。 (14 竹内元/15回担当) 総合的な学習の時間等におけるキャリア教育実践事例や、教科・領域を横断して協働する力や問題解決能力を育成する実践について検討する。 (17 安影亜紀/15回担当) 総合的な学習の時間等におけるキャリア教育実践事例や、教科・領域を横断して協働する力や問題解決能力を育成する実践について検討する。 (58 遠藤宏美/15回担当) 総合的な学習の時間等におけるキャリア教育実践事例や、教科・領域を横断して協働する力や問題解決能力を育成する実践について検討する。	共同
	生活指導と学習環境づくり	(概要) 変化の激しい社会のなかで、子どもたちの生活背景は複雑化・困難化し、学校教育に福祉の視点を取り入れる必要性が指摘され、スクールソーシャルワーカー等の導入が進んでいる。一方、これまで学校で行われてきた生活指導は福祉そのものであったのではないかと議論もある。本講義では、生活指導に関する文献講義を通して、学校における福祉的機能・ソーシャルワーク機能について学び理解を深めるとともに、望ましい学習環境のあり方について検討する。 (オムニバス/全15回) (14 竹内元/5回担当) 学校教育における生活指導に関する福祉的観点からの文献講義を指導し解説を行う。 (16 東迫健一/1回担当) 生活指導に関わる学校現場での実用を目指して、児童・生徒の事例を提示し、それに基づいた望ましい学習環境のあり方について事例演習を行う。 (17 安影亜紀/2回担当) 生活指導に関わる学校現場での実用を目指して、児童・生徒の事例を提示し、それに基づいた望ましい学習環境のあり方について事例演習を行う。 (59 盛満弥生/5回担当) 学校教育に福祉的視点を取り入れる必要性が指摘される社会的背景についての講義を行う。 (62 境泉洋/2回担当) 生活指導におけるSSWとの協働、および、引きこもりに関する講義を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	授業の分析・評価と学習開発	<p>(概要) 実際の授業事例の分析を通して、授業分析の方法と視点を学び、授業改善の視点に理解を深めるとともに、授業の再構成を通して教材構成や授業構成の視点を検討する。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(8 椋木香子・17 安影亜紀/7回担当) 道徳の授業の評価・分析の目的と方法について講義と演習を行う。</p> <p>(8 椋木香子・14 竹内元・17 安影亜紀・70 尾之上高哉/1回担当) 各回担当者の講義等の内容を踏まえ、宮崎県内での事例を示し、関連を説明する。教育心理学の観点からの授業分析の方法と視点に関する講義を行う。</p> <p>(14 竹内元・17 安影亜紀/7回担当) 授業分析に関する専門的視点と高度な技法、および教育方法学の立場からの授業改善の視点を紹介する講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
コース科目	教職実践高度化コース コース選択科目（教育課程・授業研究分野）	<p>情報メディア教育開発研究</p> <p>(概要) 多様化の進む情報メディアの特性を整理し、単元や授業のねらいの達成につなげる情報メディア活用について解説する。また、学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成についても検討する。さらに、情報メディアを効果的に活用した授業（一単位時間）や情報活用能力の育成を目指した単元をデザインし、模擬授業及びグループディスカッション等を通して具体的に改善策を検討する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(17 安影亜紀/15回担当) 情報メディアを活用した授業や情報活用能力の育成を目指した単元の計画・実施にかかわる指導および評価を行う。</p> <p>(40 新地辰朗/15回担当) 情報メディアを活用した授業や情報活用能力の育成を目指した単元の計画・実施にかかわる指導および評価を行う。</p>	共同
		<p>道徳教育開発研究</p> <p>(概要) 授業分析の方法と視点を学び理解を深めるとともに、実際の授業づくりを通して資料分析や発問構成の在り方について検討していく。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(8 椋木香子/15回担当) 道徳授業の実践事例分析と、それをもとに授業改善を行うための視点について演習を行う。</p> <p>(17 安影亜紀/15回担当) 道徳授業の実践事例分析と、それをもとに授業改善を行うための視点について演習を行う。</p>	共同
		<p>特別活動開発研究</p> <p>(概要) ・特別活動の理論と実践および指導方法のあり方について検討する。 ・特別活動の実践をめぐる現状と課題について検討する。 ・特別活動の優れた実践事例を通して特別活動のカリキュラム開発に取り組む能力を向上させる。 ・授業では、毎回指定する課題図書をもとに、講義と議論を行う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(16 東迫健一・59 盛満弥生/7回担当) 特別活動の実践に関わる事例を提示し、それに基づいた協議・演習を主導する。</p> <p>(17 安影亜紀・59 盛満弥生/7回担当) 特別活動の実践に関わる事例を提示し、それに基づいた協議・演習を主導する。</p> <p>(59 盛満弥生/1回担当) 特別活動の理論と実践および指導方法のあり方について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		<p>授業の成立と学習集団づくり</p> <p>(概要) 現代的な教育課題を把握し、授業改革の特色と実践課題をふまえて、事例検討を通して、教材解釈、発問、学習規律づくり、指導的評価活動、学習形態の交互転換といった教授行為のあり方を検討し、授業実践を創り出したリ、分析・改善したりするキーワードを理解する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(14 竹内元/15回担当) 教材解釈と発問、学習規律づくりと指導的評価活動、学習形態の交互転換といった教授行為のあり方を視点に、授業づくりと学級づくりに関する演習を主導する。</p> <p>(17 安影亜紀/15回担当) 学習集団づくりに関わる実践を分析して、改善するための視点について検討を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 教科領域指導力高度化コース	教科領域授業研究	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科領域・教科群（言語教育系、理数教育系等）各教科に関する授業論と授業分析論の演習を通して授業研究・授業分析の視点や方法を修得する。 ・教科群（言語教育系、理数教育系等）ごとに、現職教員学生と学部新卒学生分かれて、代表的な過去の実践例の分析を行う。 ・分析結果のプレゼンテーションと相互批評を通して、優れた授業の要因を解明する。 ・それぞれが過去に作成した学習指導案の改善を行う。 <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(1 幸秀樹/15回担当) 図工・美術科に関する授業論や授業分析論の講義および授業分析・授業開発に関する指導・評価を担当する。</p> <p>(3 吉村功太郎/15回担当) 社会科・地理歴史科・公民科に関する授業論や授業分析論の講義および授業分析・授業開発に関する指導・評価を担当する。</p> <p>(5 中山迅/15回担当) 理科に関する授業論や授業分析論の講義および授業分析・授業開発に関する指導・評価を担当する。</p> <p>(7 伊波富久美/15回担当) 家庭科に関する授業論や授業分析論の講義および授業分析・授業開発に関する指導・評価を担当する。</p> <p>(11 永吉寛行/15回担当) 国語科に関する授業論や授業分析論の講義および授業分析・授業開発に関する指導・評価を担当する。</p> <p>(15 後藤洋司/15回担当) 学校や教育行政における実務経験をふまえ、授業論や授業分析論の講義および授業分析・授業開発に関する指導・評価を担当する。</p>	<p>共同</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	教科領域授業開発研究	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科領域・教科群（言語教育系、理数教育系等）及び各教科に関する授業構成論（授業づくり）の演習を通して授業設計・授業作りの方法を修得する。 ・教科群（言語教育系、理数教育系等）ごとに、現職教員学生と学部新卒学生分かれて、具体的な単元を取上げて授業設計を行う。 ・作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 ・それぞれが模擬授業を実施するとともに、分析、評価を行う。 <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(2 菅裕・3 吉村功太郎・5 中山迅・6 三輪佳見・11 永吉寛行・15 後藤洋司/5回担当) 音楽科・社会科・理科・保健体育科・国語科の授業研究（主に授業開発）を指導するとともに学校や教育行政における実務経験をふまえた指導を行う。</p> <p>(2 菅裕・3 吉村功太郎・5 中山迅・6 三輪佳見・11 永吉寛行・15 後藤洋司・55 東條弘子/10回担当) 英語科・音楽科・社会科・理科・保健体育科・国語科の授業研究（主に授業開発）の授業研究（主に授業開発）を指導するとともに、学校や教育行政における実務経験をふまえた指導を行う。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
	教科領域内容開発研究	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の分野・領域・科目の指導要領における内容の分析を行い、現状を把握する。各教科の分野・領域・科目に関する教科論及び教材論と各学問分野の方法や成果を結びつける方法を理解する。 ・「資質・能力」や「教科の見方・考え方」の観点から各教科に関する教科書分析、教科論及び教材論の演習を行う。 ・各教科に関する素材研究及び演習を行う。 ・学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。 ・その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 ・本科目では受講生による発表が中心的な学習活動となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。 <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(1 幸秀樹・4 大平明夫・6 三輪佳見・12 木根主悦・20 中野通彦/6回担当) 図工・美術科・社会科・体育・算数・数学科の教科書比較分析および教材研究に関する指導・評価を担当する。</p> <p>(1 幸秀樹・4 大平明夫・6 三輪佳見・12 木根主悦・20 中野通彦・55 東條弘子/9回担当) 英語科・図工・美術科・社会科・体育・算数・数学科の教科書比較分析および教材研究に関する指導・評価を担当する。</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p> <p>講義 16時間 演習 14時間</p>
コース選択科目	言語教育系授業研究	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科領域授業研究の学習成果をもとに、「確かな学力の形成」を目指す授業の構成・展開の要因を、実践的に把握することをねらいとして、以下の学習を行う。 ・教科領域授業研究の学習に基づき、言語教育系教科ごとに、現職教員と学部新卒者がペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択し、分析及び評価を行う ・分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。（発表活動、グループ討議） ・学部新卒者が代替案の模擬授業を実施し、現職教員及び指導教員が評価を行う。（模擬授業） <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(11 永吉寛行/15回担当) 国語教育学の観点から、国語授業・活動での実践における過程分析を実施し演習指導を行う。</p> <p>(55 東條弘子/5回担当) 英語教育学の観点から、外国語（英語）授業・活動での実践における過程分析を実施し演習指導を行う。</p> <p>(63 中野登志美/15回担当) 国語教育学の観点から、国語授業・活動での実践における過程分析を実施し演習指導を行う。</p>	<p>共同</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理数教育系授業研究	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科教育授業研究の演習を手掛かりに、理数教育系教科（算数・数学科、理科）ごとに、現職教員と学部新卒学生がペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。 ・分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。 ・学部新卒学生が代替案の模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。 <p>これらに取り組みため、授業で取り上げる関連図書については、授業までに各自で読み込んで問題意識を明確にして臨むことが求められる。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(5 中山迅/15回担当) 理科教育学の観点から理科の授業分析の演習指導を行う。</p> <p>(12 木根主悦/15回担当) 数学教育学の観点から算数・数学科の授業分析の演習指導を行う。</p> <p>(22 添田佳伸/15回担当) 数学教育学の観点から算数・数学科の授業分析の演習指導を行う。</p> <p>(42 野添生/15回担当) 数学教育学の観点から算数・数学科の授業分析の演習指導を行う。</p>	共同
	社会認識教育系授業研究	<p>(概要)</p> <p>社会認識教育系（社会科、地理歴史科、公民科）の授業構成員・展開力・分析力を総合的に育むことで、社会認識系教科の高度な指導力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科教育授業研究の演習を手掛かりに、社会認識教育系教科（社会科・地理歴史科・公民科）ごとに、現職教員とストレートマスターがペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。 ・分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。 ・ストレートマスターが代替案の模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。 <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(3 吉村功太郎/15回担当) 社会科の目標論、内容としては公民系を中心に授業分析指導を行う。方法論については、両名で指導を行う。</p> <p>(43 藤本将人/15回担当) 社会科の評価論、内容としては地理歴史系を中心に授業分析指導を行う。方法論については両名で指導を行う。</p>	共同
コース科目	教科領域指導力高度化コース	<p>(概要)</p> <p>教科領域授業研究の演習を手掛かりに、芸術教育系教科（美術科・音楽科）ごとに、現職教員と学部新卒者がペアを組み主体的・対話的、深い学びを実現する実践例を選択して、分析及び評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科領域授業研究の学習に基づき、現職教員と学部新卒者がペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。 ・分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。 ・学部新卒者が代替案の模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。 ・協働方式で行う。 <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(1 幸秀樹/15回担当) 図工・美術科における優れた授業の条件について講義する。また美術科授業分析演習の指導を行う。</p> <p>(2 菅裕/15回担当) 音楽科における優れた授業の条件について講義する。また音楽科授業分析演習の指導を行う。</p>	共同
	スポーツ・生活科学教育系授業研究	<p>(概要)</p> <p>スポーツ・生活教育系教科における「確かな学力の形成」を目指す授業の構成・展開の要因を、実践的に把握することをねらいに、以下の学習を「協働方式」で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科領域授業研究の学習に基づき、現職教員と学部新卒者がペアを組み確かな学力の形成をねらいとする実践例を選択して、分析及び評価を行う。 ・分析及び評価結果のプレゼンテーションと相互批評を行い、代替案を作成する。 ・学部新卒者が代替案の模擬授業を実施し、現職教員及び指導教員が評価を行う。 <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(7 伊波富久美/15回担当) 家庭科における優れた授業の条件について講義する。また家庭科授業分析演習の指導を行う。</p> <p>(23 日高正博/15回担当) 保健体育における優れた授業の条件について講義する。また保健体育授業分析演習の指導を行う。</p> <p>(24 藤元嘉安/15回担当) 技術科における優れた授業の条件について講義する。また技術科授業分析演習の指導を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語教育系授業開発研究	<p>(概要) 教科領域授業開発研究で修得した高度な授業開発力を、より実践的な能力に高めるとともに、現職教員のメンターシップの向上をねらいとする。以下の学習を「協働方式」「グループ別指導方式」で行う。 ・言語教育系の教科に分かれて、現職教員と学部新卒者がペアを組み現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。(グループ討議、事例研究、文献調査、観察・実験) ・作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。(発表活動) ・学部新卒者が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。(模擬授業) ・この科目では、毎回、関連文献についての予習を課す。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(11 永吉寛行/15回担当) 国語教育学の観点から国語授業・活動での授業開発に関わる演習指導を行う。</p> <p>(25 村端五郎/15回担当) 英語教育学の観点から外国語(英語)授業・活動での授業開発に関わる演習指導を行う。</p> <p>(55 東條弘子/15回担当) 英語教育学の観点から、外国語(英語)授業・活動での実践における過程分析を実施し演習指導を行う。</p>	共同
	理数教育系授業開発研究	<p>(概要) ・理数教育系各教科・科目における授業開発をめぐる現状の課題等を把握する。 ・教科(算数・数学科、理科)ごとに、現職教員と学部新卒学生がグループを組み現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。 ・作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 ・学部新卒学生が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が指導助言を行う。 これらの事柄に取り組みため、各自で関連する内容について、あらかじめ文献学習をして授業に臨むことが求められる。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(5 中山迅/15回担当) 理科教育学の観点から理科の授業開発の演習指導を行う。</p> <p>(22 添田佳伸/15回担当) 数学教育学の観点から算数・数学の授業開発の演習指導を行う。</p> <p>(42 野添生/15回担当) 理科教育学の観点から理科の授業開発の演習指導を行う。</p> <p>(44 下村崇/15回担当) 物理学の観点から科学的に妥当性の高い理科の授業開発の演習指導を行う。</p>	共同
	社会認識教育系授業開発研究	<p>(概要) 教科教育授業開発で修得した高度な授業開発力を、より実践的な能力に高めるとともに、現職教員のメンターシップの向上をねらいとする。 ・社会認識教育系教科における授業開発をめぐる現状の課題等を把握する。 ・現職教員と学部新卒学生がグループを組み現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。 ・作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 ・学部新卒学生が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が指導助言を行う。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(3 吉村功太郎/15回担当) 授業開発の概要と具体的な授業開発指導、並びに模擬授業とその分析・評価など、全般を指導する。</p> <p>(33 関周一/15回担当) 教材研究指導(歴史)、模擬授業の分析・評価を行う。</p> <p>(43 藤本将人/15回担当) 学習評価に関する指導、教材研究指導、模擬授業の分析・評価を行う。</p>	共同
	芸術教育系授業開発研究	<p>(概要) ・教科教育授業開発で修得した高度な授業開発力を、より実践的な能力に高めるとともに、現職教員のメンターシップの向上をねらいとする。 ・芸術教育系の教科に分かれて、現職教員と学部新卒者がペアを組み主体的・対話的、深い学びを実現する授業の設計を行う。 ・作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 ・学部新卒学生が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(1 幸秀樹/15回担当) 図工・美術科の表現・鑑賞領域における模擬授業計画の指導及び評価を行う。</p> <p>(2 菅裕/15回担当) 歌唱・器楽・鑑賞・創作領域における模擬授業計画の指導、および評価を行う。</p> <p>(37 阪本幹子/6回担当) 技能指導の観点から授業開発に関する演習を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ・生活科学教育系授業開発研究	(概要) ・現職教員と学部新卒者がグループを組み、現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の設計を行う。(グループ討議、事例研究) ・作成した学習指導案のプレゼンテーションと相互批評を行い、修正案を作成する。 ・学部新卒者が模擬授業を実施し、現職教員、続いて指導教員が評価を行う。 (共同方式/全15回) (6 三輪佳見/15回担当) 体育科教育学の観点から体育の授業開発について演習指導を行う。 (7 伊波富久美/15回担当) 家庭科および技術・家庭科(家庭分野)における模擬授業計画の指導及び評価を行う。	共同
コース科目 教科領域指導力高度化コース	コース選択科目 言語教育系内容開発研究	(概要) 現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点及び方法を修得するために、協働方式及びグループ別指導により以下の学習を行う。 ・言語教育系各科目における教科書及び教材を巡る現状の課題を把握する。 ・現在の教育の潮流である確かな学力の形成の観点から、現在の教科書の分析を行う。 ・教科書分析をとおして、確かな学力形成と教材との媒体となる「教育内容」の関係性の理解とより妥当と考えられる内容の開発に取り組む。 ・素材研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。 (オムニバスと共同方式/全15回) (25 村端五郎・63 中野登志美/13回担当) 英語教育および外国語教育の観点から、外国語および外国語授業・活動の教材分析・開発に関わる演習活動を行う。 (25 村端五郎・55 東條弘子・63 中野登志美/2回担当) 言語教育系各科目における教科書及び教材を巡る現状の課題を把握する。	オムニバス方式・共同(一部)
	理数教育系内容開発研究	(概要) 現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点・方法をより確かなものにするとともに、具体的開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。 ・理数教育系各科目における教科書及び教材などの教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、現在に至る学習指導要領の内容及び現在の教科書の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、素材研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。 ・本科目では受講生による発表が中心的な学習活動となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。 (共同方式/全15回) (12 木根主悦/15回担当) 数学教育学の観点から算数・数学科の教材分析・教材開発の演習指導を行う。 (42 野添生/15回担当) 理科教育学の観点から理科の教材分析・教材開発の演習指導を行う。 (45 西田伸/1回担当) 生物学の観点から理科の教材分析・教材開発の演習指導を行う。	共同
	社会認識教育系内容開発研究	(概要) 学習者の学力形成を保证するための授業の内容開発の観点・方法をより明確にするとともに、具体的な開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。 ・社会認識教育系各科目における教科書及び教材などの教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、現在に至る学習指導要領の内容及び現在の教科書の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、素材研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。 (オムニバスと共同方式/全15回) (4 大平明夫・43 藤本将人/2回担当) 自然地理学の観点から社会科・地理歴史科の教材分析・教材開発の演習指導を行う。 (26 中村周作・43 藤本将人/2回担当) 人文地理学の観点から社会科・地理歴史科の教材分析・教材開発の演習指導を行う。 (43 藤本将人/11回担当) 社会科教育学の観点から社会科・地理歴史科・公民科の教材分析・教材開発の演習指導を行う。	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術教育系内容開発研究	<p>(概要) 主体的・対話的、深い学びを実現する授業の内容開発の観点・方法をより確かなものにするともに、具体的開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。 ・芸術教育系各系における教科書及び教材などの教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、現在に至る学習指導要領の内容及び現在の教科書の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、作品研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。なお、一連の演習の中では、各自の予習・復習を義務づける。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(1 幸秀樹/15回担当) 図工・美術科における教科書及び教材などの現状の課題について講義する。美術科教材分析・開発演習の指導を行う。</p> <p>(2 菅裕/14回担当) 音楽科における優れた教材の条件について講義する。音楽科教材分析・開発演習の指導を行う。</p> <p>(27 石川千佳子/14回担当) 図工・美術科における発展・補充教材開発の指導及び評価を行う。</p> <p>(36 藤本いく代/14回担当) 技能指導の観点から音楽科教材分析・開発演習を行う。</p>	共同
	スポーツ・生活科学教育系内容開発研究	<p>(概要) 現在の学校教育の潮流である「確かな学力の形成」をねらいとする授業の内容開発の観点・方法をより確かなものにするともに、具体的開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。 ・スポーツ・生活科学教育系各系・科目における教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、学習指導要領の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、素材研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(6 三輪佳見/15回担当) 運動学の観点から体育の教材分析・教材開発の演習指導を行う。</p> <p>(24 藤元嘉安/13回担当) 技術科におけるものづくりの内容から、教材分析・材料開発の演習指導を行う。</p> <p>(39 篠原久枝/15回担当) 家庭科における食の領域から、教材分析・教材開発の演習指導を行う。</p>	共同
コース科目	教科領域指導力高度化コース	<p>(概要) 言語教育の柱の一つに、教師がさまざまな教材をその素材である「ことば」から見つめ直すことがあげられます。言語教育に密接に関わる、国語学さらに言語学の分析の観点を学び合い、教材をことばの観点からどう解きほぐすか、その理論的な根拠と実践を結びつける鍛錬の場をめざします。 また、そこで得られた国語学・言語学の知見をどのように国語教育に活かすことができるのかを考えます。教材となる文学作品を知的に批評・分析する方法こそが授業実践に複層的な視点を与え、「何でもあり」にならない着地点を学習者に提供する術となります。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(28 塚本泰造・63 中野登志美/3回担当) 国語学さらに言語学の分析の観点、およびその理論的な根拠を提示する。</p> <p>(28 塚本泰造/6回担当) ことばのやりとりという観点から日本語の諸文体を分析しテキストを捉える学習を行う。</p> <p>(63 中野登志美/6回担当) 国語科教育の指導の原理を中軸に教科書教材を様々な観点から分析を行い教材の分析力や授業の構想力の育成を図る。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	言語教育系内容開発基礎研究 I A (国語学)	<p>(概要) 言語教育系教科の英語科に関する教科論や教材論と、英米文学の専門知識を総合的に結びつけ、高度な素材研究能力や教材開発能力の習得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」を含んで行なう。 ・言語教育系教科に関する教科論および教材論の演習 ・米文学に関する素材研究講義および演習 米文学短編小説を精読することによって、テキストの確実な分析法を学び、高度な読解力に基づいた解釈が行えるようになることを目指す。このことによって、どのようなレベルのものであれ、英文テキストを教材として扱う際に必須となる能力を育成し、高い教材開発能力の獲得につなげたい。 現職教員とストリートマスターの混成協働グループで教材作成し、プレゼンテーションまたは模擬授業を行い、省察的観察に基づく相互批評と改善策の検討を実施する。(協働学習グループ、事例研究、現地調査、プレゼンテーション) なお、この授業では毎回事前に指示された文学作品を読む、分析する、プレゼンテーションの準備をするなどの課題を課す。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(46 井崎浩/15回担当) オーセンティックな教材をいかに授業に生かしていくかの指導について助言する。</p> <p>(55 東條弘子/2回担当) 模擬授業を通して問題点をあぶり出し、よりよい読解の授業のあり方を共同で考察・指導する。</p>	共同
	言語教育系内容開発基礎研究 I B (米文学)	<p>(概要) 言語教育系教科の英語科に関する教科論や教材論と、英米文学の専門知識を総合的に結びつけ、高度な素材研究能力や教材開発能力の習得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」を含んで行なう。 ・言語教育系教科に関する教科論および教材論の演習 ・米文学に関する素材研究講義および演習 米文学短編小説を精読することによって、テキストの確実な分析法を学び、高度な読解力に基づいた解釈が行えるようになることを目指す。このことによって、どのようなレベルのものであれ、英文テキストを教材として扱う際に必須となる能力を育成し、高い教材開発能力の獲得につなげたい。 現職教員とストリートマスターの混成協働グループで教材作成し、プレゼンテーションまたは模擬授業を行い、省察的観察に基づく相互批評と改善策の検討を実施する。(協働学習グループ、事例研究、現地調査、プレゼンテーション) なお、この授業では毎回事前に指示された文学作品を読む、分析する、プレゼンテーションの準備をするなどの課題を課す。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(46 井崎浩/15回担当) オーセンティックな教材をいかに授業に生かしていくかの指導について助言する。</p> <p>(55 東條弘子/2回担当) 模擬授業を通して問題点をあぶり出し、よりよい読解の授業のあり方を共同で考察・指導する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語教育系内容開発基礎研究ⅡA (国文学)	<p>(概要) 言語教育系教科の言語事項を中心とする教科論及び教材論と国文学 (近現代文学) の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。 1.言語教育系教科の文学事項 (近現代文学) を中心とする現状の分析 2.言語教育系教科の文学事項 (近現代文学) を中心とする教科論及び教材論の演習 言語事項を中心とする素材研究及び演習。学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(21 中村佳文/6回担当) 近現代文学の講義・演習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力を修得させる。</p> <p>(21 中村佳文・63 中野登志美/3回担当) 言語教育系教科の言語事項を中心とする教科論及び教材論と国文学 (近現代文学) の方法や成果について説明する。</p> <p>(63 中野登志美/6回担当) 国語教育学の観点から、国語授業・活動での実践における過程分析を実施し演習指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	言語教育系内容開発基礎研究ⅡB (英文学)	<p>(概要) 言語教育系教科の英語科に関する教科論や教材論と、英米文学の専門知識を総合的に結びつけ、高度な素材研究能力や教材開発能力の習得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」を含んで行う。 ・言語教育系教科に関する教科論および教材論の演習 ・英文学に関する素材研究講義および演習 ・現職教員とストリートマスターの混成協働グループによる教材作成、プレゼンテーションまたは模擬授業、省察的観察に基づく相互批評と改善策の検討 (協働学習グループ、事例研究、現地調査、プレゼンテーション)</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(47 新名桂子/11回担当) 英文学の立場から、学生が、英文学のテキストを読み、その面白さと奥深さを理解した上で、それを生徒に伝えることができるよう指導する。</p> <p>(47 新名桂子・55 東條弘子/4回担当) 英語科教育の立場から、英文学のテキストをどのように授業に取り入れることができるかということについて指導する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
コース科目 教科領域指導力高度化コース	言語教育系内容開発基礎研究ⅢA (古典)	<p>(概要) 言語教育系教科の言語事項を中心とする教科論及び教材論と国文学 (古代文学) 及び漢文学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」(中村、山元)で行う。 1.言語教育系教科の文学事項 (古文・漢文) を中心とする現状の分析 2.言語教育系教科の文学事項 (古文・漢文) を中心とする教科論及び教材論の演習 国文学 (古代文学) 及び漢文学担当教員による言語事項を中心とする素材研究及び演習。学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(11 永吉寛行・21 中村佳文・48 山元宣宏/3回担当) 言語教育系教科の言語事項を中心とする教科論及び教材論と国文学 (古代文学) 及び漢文学の方法や成果について説明する。</p> <p>(11 永吉寛行・21 中村佳文/1回担当) 古代文学の講義・演習をふまえて、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する実践的な能力を伸ばす。</p> <p>(11 永吉寛行・48 山元宣宏/1回担当) 漢文学の講義・演習をふまえて、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する実践的な能力を伸ばす。</p> <p>(21 中村佳文/5回担当) 古代文学の講義・演習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力を修得させる。</p> <p>(48 山元宣宏/5回担当) 漢文学の講義・演習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力を修得させる。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	理数教育系内容開発基礎研究ⅠA (代数学)	<p>(概要) 理数教育系教科の算数・数学科に関する内容開発論と代数学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。 ・現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、小学校、中学校、高等学校における代数学に関する演習、素材研究、教材に転化する活動を行う。 ・開発した教材のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。 ・本科目では受講生による発表が中心的な学習活動となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理数教育系内容開発基礎研究ⅠB（物理学）	<p>(概要)</p> <p>理数教育系教科の理科に関する内容開発論と物理学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。</p> <p>・現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、小学校、中学校、高等学校における物理学に関する演習、素材研究、教材に転化する活動を行う。</p> <p>・開発した教材のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(5 中山迅・29 秋山博臣・44 下村崇/6回担当) 理科教育の観点から児童・生徒の認識と物理学的認識をつなぐ教材開発についての演習指導を行う。</p> <p>(29 秋山博臣・44 下村崇/9回担当) 物理学の観点から物理概念と物理的方法論を生かした教材開発についての演習指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	理数教育系内容開発基礎研究ⅡA（幾何学）	<p>(概要)</p> <p>理数教育系教科の算数・数学科に関する教科論及び教材論と幾何学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」で行う。</p> <p>・算数・数学科に関する教科論及び教材論の演習</p> <p>・幾何学に関する素材研究及び演習</p> <p>・現職教員とストレートマスターのグループに分かれて、幾何学に関する素材研究、教材に転化する作業、その結果のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。（グループ討議、事例研究、文献調査、発表活動）</p>	
	理数教育系内容開発基礎研究ⅡB（化学）	<p>(概要)</p> <p>理数教育系教科の理科に関する内容開発論と化学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、小学校、中学校、高等学校における化学に関する演習、素材研究、教材に転化する活動を行う。また、開発した教材のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(30 中林健一/2回担当) 化学の観点から化学概念と化学的方法論を生かした教材開発についての演習指導を行う。</p> <p>(30 中林健一・42 野添生/6回担当) 理科教育の観点から児童・生徒の認識と化学的認識をつなぐ教材開発についての演習指導を行う。</p> <p>(30 中林健一・49 有井秀和/7回担当) 化学の観点から化学概念と化学的方法論を生かした教材開発についての演習指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
コース科目	教科領域指導力高度化コース	<p>(概要)</p> <p>理数教育系教科の算数・数学科に関する教科論及び教材論と解析学・応用数学の方法や成果を結びつける学習を通して、育成すべき「資質・能力」や「教科の見方・考え方」を考慮した、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」で行う。（木根主悦・添田佳伸・藤井良宜）</p> <p>・算数・数学科に関する教科論及び教材論の演習</p> <p>・解析学・応用数学に関する素材研究及び演習</p> <p>現職教員とストレートマスターのグループに分かれて、解析学に関する素材研究、教材に転化する作業、その結果のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。（グループ討議、事例研究、文献調査、発表活動）</p> <p>そのため、本科目では受講生による発表が中心となるため、毎回、発表担当者には事前に発表準備を課す。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(12 木根主悦/15回担当) 数学教育学の観点から算数・数学科における解析学・応用数学関連教材の分析・開発の演習指導を行う。</p> <p>(22 添田佳伸/15回担当) 数学教育学の観点から算数・数学科における解析学・応用数学関連教材の分析・開発の演習指導を行う。</p> <p>(31 藤井良宜/15回担当) 統計学の観点から算数・数学科における解析学・応用数学関連教材の分析・開発の演習指導を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理数教育系内容開発基礎研究ⅢB (生物学・地学)	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数教育系教科の理科に関する内容開発論と生物学・地学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。 ・現職教員と学部新卒学生のグループに分かれて、小学校、中学校、高等学校における生物学・地学に関する演習、素材研究、教材に転化する活動を行う。 ・開発した教材のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。 <p>これらの事柄に取り組むため、受講生は、各自で関連する内容についてあらかじめ参考図書で学習して授業に臨むことが求められる。また、設定したテーマについて教材化する学習では、授業時間以外における各自の取り組みも求められる。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(5 中山迅・42 野添生/1回担当) 理科教育の観点から児童・生徒の認識と地学的・生物学的認識をつなぐ教材開発についての演習指導を行う。</p> <p>(5 中山迅・32 八ツ橋寛子・42 野添生・45 西田伸・50 山北聡/4回担当) 生物学の観点から生物概念と生物学の方法論を生かした教材開発についての演習指導を行う。</p> <p>(5 中山迅・42 野添生・50 山北聡/1回担当) 理科教育の観点から児童・生徒の認識と地学的認識をつなぐ教材開発についての演習指導を行う。</p> <p>(50 山北聡/9回担当) 地学の観点から地学概念と地学的方法論を生かした教材開発についての演習指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	社会認識教育系内容開発基礎研究ⅠA (地理学)	<p>(概要)</p> <p>社会認識教育系教科 (社会科・地歴科) の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論と地理学の研究の視点・方法や成果とを結びつけることができる。また、社会認識教育系教科の地理的分野・科目に関する教科論及び教材論と地理学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科 (社会科・地歴科) の地理的分野・領域に関する現状の分析。 ・社会認識教育系教科 (社会科・地歴科) の地理的分野・領域に関する教科論及び教材論の演習 ・人文地理学・経済地理学担当教員による地理的分野・科目に関する素材研究及び演習 <p>・学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(4 大平明夫/5回担当) 自然地理学の観点から社会科・地理歴史科 (地理分野) の教材開発の演習指導を行う。</p> <p>(4 大平明夫・26 中村周作・43 藤本将人/5回担当) 社会科教育学の観点から社会科・地理歴史科 (地理分野) の教材開発の演習指導を行う。</p> <p>(26 中村周作/5回担当) 人文地理学の観点から社会科・地理歴史科 (地理分野) の教材開発の演習指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	社会認識教育系内容開発基礎研究ⅠB (歴史学)	<p>(概要)</p> <p>社会認識教育系教科 (社会科・地歴科) の歴史的分野に関する教科論および教材論と、歴史学研究の視点・方法や成果を結びつける。この学習を通して、高度な素材研究能力や教材開発能力・技術の修得をねらう。以下の学習を「協働方式」(関周一、中堀博司、藤本将人)で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会認識教育系教科の歴史的分野に関する現状の分析 ・社会認識教育系教科の歴史的分野に関する教科論および教材論の演習 ・歴史学担当教員による歴史的分野・科目に関する素材研究および講義・演習 <p>・学校種別、または現職教員学生と新卒既卒学生のグループ単位による、素材研究をもとにした教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発した教材によるプレゼンテーションと、相互批評および評価 <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(33 関周一/15回担当) 日本史学の観点から社会科・地理歴史科 (歴史分野) の教材開発の演習指導を行う。</p> <p>(43 藤本将人/15回担当) 社会科教育学の観点から社会科・地理歴史科 (歴史分野) の教材開発の演習指導を行う。</p> <p>(51 中堀博司/15回担当) 西洋史学の観点から社会科・地理歴史科 (歴史分野) の教材開発の演習指導を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会認識教育系内容開発基礎研究ⅡA（経済学）	<p>(概要) 社会認識教育系教科の公的的分野・科目に関する教科論及び教材論と経済学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。以下の学習を「協働方式」・「グループ別指導方式」（吉村、入谷、金谷）で行う。 ・社会認識教育系教科の経済的分野・領域に関する現状の分析 ・社会認識教育系教科の経済的分野・領域に関する教科論及び教材論の演習 ・社会学担当教員による公的的分野・科目（経済領域）に関する素材研究及び演習 ・学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。 ・その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(3 吉村功太郎/15回担当) 社会科教育学の観点から社会科・公民科（経済分野）の教材開発の演習指導を行う。</p> <p>(34 金谷義弘/15回担当) 経済学の観点から社会科・公民科（経済分野）の教材開発の演習指導を行う。</p>	共同
コース科目 教科領域指導力高度化コース	社会認識教育系内容開発基礎研究ⅡB（法学・政治学）	<p>(概要) 社会認識教育系教科の公的的分野・科目に関する教科論及び教材論と法学・政治学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。</p>	
	社会認識教育系内容開発基礎研究ⅢA（社会学）	<p>(概要) 社会認識教育系教科の公的的分野・科目に関する教科論及び教材論と社会学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。 ・社会認識教育系教科の社会的分野・領域に関する現状の分析 ・社会認識教育系教科の社会的分野・領域に関する教科論及び教材論の演習 ・社会学担当教員による公的的分野・科目（社会領域）に関する素材研究及び演習 ・学校種別、または現職教員学生と学部新卒学生のグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行う。 ・その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。</p>	
	社会認識教育系内容開発基礎研究ⅢB（倫理学）	<p>(概要) 社会認識教育系教科の公的的分野・科目に関する教科論及び教材論と哲学・倫理学の方法や成果を結びつける学習を通して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力、教材開発技術の修得をねらいとする。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(3 吉村功太郎/15回担当) 社会科教育学の観点から社会科・公民科（哲学・倫理分野）の教材開発の演習指導を行う。</p> <p>(35 柏葉武秀/15回担当) 哲学・倫理学の観点から社会科・公民科（哲学・倫理分野）の教材開発の演習指導を行う。</p>	共同
	芸術教育系内容開発基礎研究ⅠA（音楽）	<p>(概要) ・芸術教育系教科である音楽科の、特に声楽・合唱に関する作品研究及び演習を通して、高度な作品研究能力や作品を教材に転化する能力、教材開発技術の修得を狙いとする。 ・作品を教材に転化する作業を行うとともに、その結果を基にプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う（グループ討議、作品研究、発表活動）</p> <p>(オムニバスと共同方式/全15回)</p> <p>(2 菅裕・36 藤本いく代/10回担当) 学習指導要領における歌唱領域の内容についての講義、教科書歌唱・合唱教材の分析と教材開発演習の指導を行う。</p> <p>(36 藤本いく代/5回担当) 歌唱・合唱に関する教材開発の演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	芸術教育系内容開発基礎研究ⅠB（美術・平面表現）	<p>(概要) 芸術教育科の美術科に関する教科論及び教材論と、平面表現とを結びつける学習・演習を通して、高度な作品研究能力や作品を教材に転化する能力、さらに教材開発技術の習得をねらいとする。授業は「協働方式」による演習形式で行う。なお一連の演習の中では各自の予習・復習を義務づける。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(1 幸秀樹/15回担当) 芸術教育科の図工・美術科に関する教科論及び教材論と平面表現とを結びつける学習・演習の指導及び評価を行う。</p> <p>(27 石川千佳子/15回担当) 芸術教育科の図工・美術科に関する教科論及び教材論と平面表現とを結びつける学習・演習の指導及び評価を行う。</p> <p>(52 大泉佳広/15回担当) 芸術教育科の図工・美術科に関する教科論及び教材論と平面表現とを結びつける学習・演習の指導及び評価を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術教育系内容開発基礎研究ⅡA（器楽・合奏）	<p>（概要） 器楽・合奏に関する基礎的知識を習得し、音楽科の見方・考え方や主体的・対話的、深い学びの観点から児童・生徒の発達段階に応じた適切な指導計画を作成する能力を修得する。 学習指導要領における器楽領域の内容についての講義、教科書器楽・合奏教材の分析とそれに基づく教材開発演習の指導を行う。</p> <p>（オムニバスと共同方式／全15回） (2 菅裕・37/3回担当) 学習指導要領における器楽領域の内容についての講義を行う。 (2 菅裕・37 阪本幹子/6回担当) 教科書器楽・合奏教材の分析とそれに基づく器楽についての教材開発の演習を行う。 (2 菅裕・56 浦雄一/6回担当) 教科書器楽・合奏教材の分析とそれに基づく合奏についての教材開発の演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	芸術教育系内容開発基礎研究ⅡB（美術・立体表現）	<p>（概要） ・芸術教育系教科（美術科・立体表現）に関する教材開発と授業分析の演習 ・現職教員と学部新卒者グループに分かれて、代表的な実践例の分析を行う。 ・分析結果のプレゼンテーションと相互批評を通して、優れた授業の要因を解明する。 ・それぞれが過去に作成した（または既成の）学習指導案の改善を行い、それに基づく模擬授業を行う。 ・なお一連の演習の中では各自の予習・復習を義務づける。</p> <p>（オムニバスと共同方式／全15回） (1 幸秀樹/2回担当) 芸術教育系教科（美術科・立体表現）に関する教材開発と授業分析の指導及び評価を行う。 (1 幸秀樹・53 大野匠/13回担当) 芸術教育系教科（美術科・立体表現）に関する教材開発の指導及び評価を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
コース科目	教科領域指導力高度化コース	<p>（概要） 音楽科の見方・考え方や主体的・対話的、深い学びの観点から授業の内容開発の観点・方法をより確かなものにするとともに、具体的開発及び評価を行うために、協働方式により以下の学習を行う。 ・芸術教育系各科における教科書及び教材などの教育内容を巡る現状の課題を把握する。 ・確かな学力の形成の観点から、現在に至る学習指導要領の内容及び現在の教科書の分析を行うとともに、修正・改善案を作成する。 ・特定単元の発展・補充教材を開発することを通して、作品研究をもとに教材に転化する能力・技術を獲得する。</p> <p>（共同方式／全15回） (2 菅裕/15回担当) 学習指導要領における音楽理論の内容についての講義、教科書における音楽理論の記述分析とそれに基づく教材開発演習の指導を行う。 (56 浦雄一/15回担当) 音楽理論に関する教材開発について演習を行う。</p>	共同
	芸術教育系内容開発基礎研究ⅢB（造形鑑賞）	<p>（概要） 芸術教育科の美術科に関する教科論及び教材論と、造形鑑賞とを結びつける学習・演習を通して、高度な作品研究能力や作品を教材に転換する能力、さらに教材開発技術の習得をねらいとする。授業は「協働方式」による演習形式で行う。なお一連の演習の中では各自の予習・復習を義務づける。</p> <p>（共同方式／全15回） (1 幸秀樹/15回担当) 芸術教育科の図工・美術科に関する教科論及び教材論と造形鑑賞とを結びつける教材の分析と評価を行う。 (27 石川千佳子/15回担当) 芸術教育科の図工・美術科に関する教科論及び教材論と造形鑑賞とを結びつける講義及び演習を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠA（身体能力形成）	<p>（概要） スポーツ・生活科学教育系教科の体育分野に関して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力の向上をねらいとし、以下の学習を「協働方式」で行う。 ・体育分野、特に自己のからだの動きそのものを中核的内容とする運動領域等に関する素材研究・現職教員と学部新卒者のグループに分かれて、体育分野・科目に関する素材研究、教材に転化する作業、その結果のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。</p> <p>（オムニバスと共同方式／全15回）</p> <p>（6 三輪佳見／5回担当） 体育科の教材論及び器械運動領域の教材開発について演習を行う。</p> <p>（6 三輪佳見・38 松永智／1回担当） 体育科の教材論の視点から体づくり運動領域の教材開発について演習を行う</p> <p>（6 三輪佳見・68 宇土昌志／1回担当） 体育科の教材論の視点から陸上運動・陸上競技領域の教材開発について演習を行う。</p> <p>（38 松永智／4回担当） 体づくり運動領域の教材開発について演習を行う。</p> <p>（68 宇土昌志／4回担当） 陸上運動・陸上競技領域の教材開発について演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠB（食物・保育）	<p>（概要） ・現職教員と学部新卒者がペアを組み、食物及び保育分野の中から特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。（グループ討議） ・素材から教材へ転化する手掛かりとなる教科専門教員による食物及び保育分野に関する素材研究及び演習。（事例研究・実験・演習活動） ・選択した単元の素材-教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。（発表活動） ・上記の活動を円滑に実施するために、毎回、関連文献の予習を課す。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 伊波富久美／3回担当） 家庭科に関する教科論及び教材論と食物・保育とを結びつける講義および演習を行う。</p> <p>（39 篠原久枝／12回担当） 食物、保育に関する教材開発の演習指導を行う。</p>	オムニバス方式
	スポーツ・生活科学教育系内容開発基礎研究ⅠC（技術）	<p>（概要） スポーツ・生活科学教育系教科（技術科）における技術分野「材料と加工に関する技術」及び「エネルギー変換に関する技術」について教科論及び教材論の講義・演習を行い、技術分野「材料と加工に関する技術」及び「エネルギー変換に関する技術」について素材研究を行う。 現職教員とストレートマスターのグループに分かれて、素材研究をもとに教材に転化する作業を行うとともに、その結果をもとにプレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（24 藤元嘉安／8回担当） 学習指導要領における技術科の材料と加工の領域内容についての講義、教科書における音楽理論の記述分析とそれに基づく教材開発演習の指導を行う。</p> <p>（54 湯地敏史／7回担当） 学習指導要領における技術科のエネルギー変換の領域内容についての講義、教科書における音楽理論の記述分析とそれに基づく教材開発演習の指導を行う。</p>	オムニバス方式
コース科目	教科領域指導力高度化コース	<p>（概要） スポーツ・生活科学教育系教科の体育分野に関して、高度な素材研究能力や素材を教材に転化する能力の向上をねらいとし、以下の学習を「協働方式」で行う。 ・体育分野、特に他者と直接的に対峙する競争を中核的内容とする運動領域に関する素材研究・現職教員と学部新卒者のグループに分かれて、体育分野・科目に関する素材研究、教材に転化する作業、その結果のプレゼンテーション、さらに相互批評と評価を行う。</p> <p>（オムニバスと共同方式／全15回）</p> <p>（6 三輪佳見／4回担当） 運動学の観点から体育における対人的種目の教材開発について演習を行う。</p> <p>（6 三輪佳見・23 日高正博／1回担当） 体育科教育の視点から対人的種目の教材開発について演習を行う。</p> <p>（23 日高正博／5回担当） ボール運動・球技領域の教材開発について演習を行う。</p> <p>（23 日高正博・67 森崎由理江／1回担当） 体育科教育の視点から武道領域の教材開発について演習を行う。</p> <p>（67 森崎由理江／4回担当） 武道領域の教材開発について演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ・生活科学教育系 内容開発基礎研究ⅡB（被服）	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現職教員と学部新卒者がペアを組み、被服分野の中から特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。(グループ討議) ・素材から教材へ転化する手掛かりとなる教科専門教員による被服分野に関する素材研究及び演習。(事例研究・実験・演習活動) ・選択した単元の素材-教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(発表活動) ・上記の活動を円滑に実施するために、毎回、関連文献の予習を課す。 	
	スポーツ・生活科学教育系 内容開発基礎研究ⅡC（栽培）	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現職教員とストレートマスターがペアを組み、技術分野（栽培）から研究IICと関連付けた特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。素材から教材へと転化する手掛かりとなる技術分野（栽培）に関する素材研究および選択した単元の素材・教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。 	
	スポーツ・生活科学教育系 内容開発基礎研究ⅢA（保健）	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育・スポーツ活動における保健管理や保健指導に関する知見を深め、今後のあり方について考察する。授業は、文献と資料の輪読と討論によって進める。 	
	スポーツ・生活科学系教育 内容開発基礎研究ⅢB（住居）	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現職教員と学部新卒者がペアを組み、住居分野の中から特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。(グループ討議) ・素材から教材へ転化する手掛かりとなる教科専門教員による住居分野に関する素材研究及び演習。(事例研究・実験・演習活動) ・選択した単元の素材-教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(発表活動) ・課題に応じた本授業の予習と復習は必須である。 	
	スポーツ・生活科学教育系 内容開発基礎研究ⅣB（家庭経営）	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現職教員と学部新卒者がペアを組み、家庭経営分野の中から特定の単元を選択して、素材研究から教材に転化する計画を立案する。(グループ討議) ・素材から教材へ転化する手掛かりとなる教科専門教員による家庭経営分野に関する素材研究及び演習。(事例研究・実験・演習活動) ・選択した単元の素材-教材研究を行うとともに、プレゼンテーションを行い、相互批評と評価を行う。(発表活動) ・上記の活動を円滑に実施するために、毎回、関連文献の予習を課す。 <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(7 伊波富久美/15回担当) 家庭科に関する教科論及び教材論と家庭経営とを結びつける講義および演習を行う。</p> <p>(57 大矢英世/15回担当) 家庭科に関する教科論及び教材論と家庭経営とを結びつける教材の分析と評価を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（教育学研究科教職実践開発専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 特別支援教育コース	障害児教育の理論と実践	<p>（概要） 知的障害、肢体不自由、病弱、情緒障害、言語障害、重度・重複障害のある児童生徒の特徴や指導・支援方法について講義・演習を行う。また、学校において児童生徒の行動問題に対応する方法として、応用行動分析学に基づく理論と指導・支援方法について事例を交えて学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 戸ヶ崎泰子／7回担当） 知的障害、肢体不自由、病弱、情緒障害、言語障害、重度・重複障害のある児童生徒の特徴や指導・支援方法について講義・演習を行う。</p> <p>（65 半田健／8回担当） 応用行動分析学の理論に関する理解を促し、障害のある児童生徒の行動問題への指導・支援方法について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式
	自立活動論	<p>（概要） ・自立活動が成立するまでの歴史的経緯や自立活動の理念について理解するとともに、特別支援教育における位置付けを明確にする。 ・自立活動の指導を具現化する上で不可欠な個別の指導計画やチームアプローチの在り方について分析・検討する。 ・実際に指導計画案を作成し協議と評価を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 戸ヶ崎泰子／4回担当） 自立活動の成立の背景及び諸外国での自立訓練や機能訓練の現状、学校における指導体制構築に関して講義・演習を行う。</p> <p>（18 武富志郎／6回担当） 自立活動成立の歴史的経緯や自立活動の理念、現状と課題について講義・演習を行う。</p> <p>（65 半田健／5回担当） 自立活動の内容・項目、個別の指導計画との関連、実際の指導について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式
	発達障害児教育の理論と実践	<p>（概要） 特別支援教育の理念と制度、限極性学習症（SLD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等の「発達障害」の定義と状態像、さらには併存症状や二次的な問題について理解を深める。また、「発達障害」の幼児・児童・生徒の学習上のつまずきや人間関係上のつまずきに注目して、その特徴や指導・支援に必要な基礎理論、具体的な指導・支援技法に関して講義、討議、演習、発表を通じて理解を深め、指導技法を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 戸ヶ崎泰子／7回担当） 発達障害のある児童生徒の学習面や人間関係上のつまずきに対する指導・支援について講義・演習を行う。</p> <p>（65 半田健／8回担当） 特別支援教育の理念と制度、「発達障害」に含まれる各種障害の状態像と併存症状や二次障害について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式
	障害のある子どもの事例研究法	<p>（概要） 障害のある児童生徒を対象とした事例研究の論文や資料を読み解く上で必要となる研究法について講義・演習を行う。また、教育実践の有効性を客観的に評価する方法として、一事例の実験デザインの特徴や手続きについて事例を交えて学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 戸ヶ崎泰子／7回担当） 学校における事例研究の意義と倫理的配慮について理解を促し、研究法（質的研究法、質問紙法）について講義・演習を行う。</p> <p>（65 半田健／8回担当） 学校での事例研究におけるアセスメント方法や研究法（観察法、一事例実験デザイン）について講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別支援教育実践研究	<p>(概要) 「障害のある子どもの事例研究法」や「障害児アセスメントと個別の指導計画」で身につけた知識・技術を基に、知的障害、肢体不自由、病弱、自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如多動症などの障害児・者及びその家族に対する最新の実践研究等の資料・文献の読解をとおして治療教育の援助技法の理解を深める。その上で、各自の日頃の教育活動や研究課題としている具体的事例について報告し、スーパービジョンを通して教育実践力を高める。</p> <p>(共同方式/全15回)</p> <p>(10 戸ヶ崎泰子/15回担当) 特別支援教育に関する最新の実践研究等の資料・文献の読解を通して障害児の治療教育の援助技法の理解を促す。その上で、学生それぞれの日頃の教育活動や研究課題としている具体的事例に対するスーパービジョンを行う。</p> <p>(64 中井靖/15回担当) 特別支援教育に関する最新の実践研究等の資料・文献の読解を通して障害児の治療教育の援助技法の理解を促す。その上で、学生それぞれの日頃の教育活動や研究課題としている具体的事例に対するスーパービジョンを行う。</p> <p>(65 半田健/15回担当) 特別支援教育に関する最新の実践研究等の資料・文献の読解を通して障害児の治療教育の援助技法の理解を促す。その上で、学生それぞれの日頃の教育活動や研究課題としている具体的事例に対するスーパービジョンを行う。</p> <p>(66 権倍珍/15回担当) 特別支援教育に関する最新の実践研究等の資料・文献の読解を通して障害児の治療教育の援助技法の理解を促す。その上で、学生それぞれの日頃の教育活動や研究課題としている具体的事例に対するスーパービジョンを行う。</p>	共同
コース科目	特別支援教育コース コース必修科目	<p>(概要) 2012年に中央教育審議会から「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」が報告され、インクルーシブ教育システムの構築の推進が図られている。本授業では、このような現状をふまえ、ICF、インクルーシブ教育の歴史と現状・課題、国際動向、共生社会、インクルーシブ教育における合理的配慮と基礎的環境整備について学び、事例紹介や議論を行う。さらに、障害理解教育や交流及び共同学習の意義と実際、インクルーシブ教育を実践するための学級づくり、専門機関の活用・連携のあり方、特別支援教育コーディネーターの役割について学ぶことにより、インクルーシブ教育に関する理解を深めていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(65 半田健/6回担当) インクルーシブ教育の実現に向けた学級づくり（障害理解教育や交流及び共同学習）と関係諸機関との連携について講義・演習を行う。</p> <p>(66 権倍珍/9回担当) インクルーシブ教育の歴史と世界的動向について理解を促し、基礎的環境整備と合理的配慮に関する講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式
	コース選択科目	<p>(概要) 働くことやキャリア教育・進路指導の意義、障害児・者の就労に関する状況と課題、今後のキャリア教育・進路指導の方向性について学び、理解を深める。また、小・中学部、高等部でのキャリア教育、障害の特性に応じたキャリア教育、各教科におけるキャリア教育、保護者・地域・関係機関との連携、障害児・者の就労に関わる法制体系及び就労形態、福祉制度、合理的配慮についての講義、議論を通じて理解を深め、特別支援学校でのキャリア教育全体学習計画を立てる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 戸ヶ崎泰子/7回担当) 特別支援学校での障害特性に応じたキャリア教育の実際、各教科とキャリア教育との関連や保護者・地域・関係機関との連携について講義・演習を行う。</p> <p>(66 権倍珍/8回担当) 障害児・者の就労に関わる法制体系及び就労形態、福祉制度、合理的配慮について講義し、議論を深める。</p>	オムニバス方式
	特別支援教育コーディネーター論	<p>(概要) 特別支援学校や小・中学校における特別支援教育コーディネーターの役割及び求められる資質・能力について講義・演習を行う。また、演習での協議やゲストティーチャーの講義を通して、校内外の支援体制構築の実際について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 戸ヶ崎泰子/5回担当) 校内支援体制構築や学級担任支援に関する特別支援教育コーディネーターの役割の実際について講義・演習を行う。</p> <p>(18 武富志郎/5回担当) センター的機能の推進に向けた宮崎県の取組（エリアサポート体制）や関係機関との連携について講義・演習を行う。</p> <p>(65 半田健/5回担当) 特別支援教育コーディネーターの役割について確認し、求められる資質・技能に関する講義・演習を行う。</p>	オムニバス方式
	特別支援教育の家族支援論	<p>(概要) 特別支援教育においては、特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への支援・指導に加え、家族支援の視点も必要である。この授業では、幼児・児童・生徒と相互に影響し合う家族を適切に支援できる教員の養成を目指し、家族支援に関する歴史的背景、法的根拠、守秘義務、支援体制、支援技法とその実際について講義・集団討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(64 中井靖/8回担当) 特別支援教育における家族支援に関する基本的事項（歴史的背景、法的根拠、守秘義務）について講義・集団討論を行う。</p> <p>(65 半田健/7回担当) 特別支援教育における家族支援に関する基本的事項（支援体制、支援技法）及びその実際について講義・集団討論を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学研究科教職実践開発専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教育実習科目	学校における実習	教職実践高度化コース 基礎能力発展実習	(概要) 学部段階における教育実習において修得した教科指導・道徳等の基本的能力を深化・発展させる実習を行う。「教科学習の構成と展開・評価と課題」での学びをもとに、授業分析・授業開発・教材開発に関する高度な実践力の習得を目指す。	
		学校教育実践研究実習	(概要) 基礎能力発展実習において修得した力量のある新任教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解及び教科等の指導力を基礎として、学校組織の一員として力量ある新任教員に求められる能力・資質及び幅広い知見を習得する。この科目は、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究それぞれの能力を養う。	
		教育実践開発研究実習	(概要) 基礎能力発展実習において修得した力量のある新任教員に求められる使命感・倫理観、学級経営能力、子ども理解及び教科等の指導力を基礎として、学校組織の一員として力量ある新任教員に求められる能力・資質及び幅広い知見を習得する。この科目は、使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力、課題研究それぞれの能力を養う。	
		メンターシップ実習	(概要) 第1週目に宮崎県教育研修センターが実施する初任者研修に参画し、その後、附属学校において、基礎能力発展実習のストリートマスターを対象に、指導・助言を行う。その指導の在り方について、大学教員や指導主事より指導助言を受けて省察し、スクールリーダーに必要な能力・資質の向上を図る。この科目では、毎回事前・事後の学習を義務づける。	
		学校教育高度化実践研究実習	(概要) ミドルリーダーとして必要な教育実践の知識と能力を勤務校での実践を通じて修得する。具体的には、宮崎県の育成指標に基づき、「能力発揮期Ⅱ」のステージにおける「教員としての基本姿勢」および「授業力」「児童生徒理解・指導力」の各項目で定められている知識・能力を身につける。	
		教育実践高度化開発研究実習	(概要) 教職大学院で学修した学級経営や学校経営に関する知識と技能を基に、ミドルリーダーとして求められる資質・能力の向上をねらいとする。具体的には、宮崎県の育成指標に基づき、「能力発揮期Ⅱ」のステージにおける「学校経営や組織への参画・貢献」および管理職育成指標の「教職としての基本姿勢」の各項目で定められている知識・能力を身につける。	
		マネジメント実習	(概要) 教職大学院で学修したマネジメントに関する知識と能力を勤務校での実践を通じてフィードバックする。具体的には宮崎県の管理職育成指標に基づき、副校長・教頭に求められる「創造的企画力」「リーダーシップ」「人材育成力」「学部折衝力」「管理運営力」「教職としての基本姿勢」の6つの資質・能力の各項目で定められている目標を身につける。	
	特別支援教育コース	特別支援基礎能力発展実習	(概要) 学部段階での教育実習において修得した教員としての基礎的・基本的な能力を、より確かなものに発展させるとともに、教職大学院において履修する必修5領域の学習内容を実践に転化・応用する実習を通して、力量ある新任教員に求められる能力・資質及び幅広い知見を修得する。5月～9月に定期的に特別支援学校に赴き、児童生徒の実態把握を丁寧に行い、単元計画や学習指導案の検討を重ね、教育実践に取り組む。	
		コーディネーター実習	(概要) 現職教員として培ってきた教育実践力を基盤としながら、地域の学校等に対する特別支援学校のセンター的機能の充実に資する力量形成を目指す。本実習では、所属校の特別支援教育コーディネーターとの協働等を通して特別支援教育コーディネーターの役割を実践的に学び、コーディネーターとしての技量向上に取り組む。	
		特別支援教育実践研究実習Ⅰ	(概要) 大学院での学修を基盤としながら各自の研究課題に取り組むことで力量ある新任教員・中堅教員に求められる能力・資質の向上を図る。5月～9月に自己の研究課題や教育課題に即した教育実習(実践研究)に取り組む。なお、新卒既卒学生は自己の研究課題に即した学校において実習を行い、現職教員学生は所属校において実習に取り組む。	
		特別支援教育実践研究実習Ⅱ	(概要) 「特別支援教育実践研究実習Ⅰ」での各自の研究課題に継続して取り組み、力量ある新任教員・中堅教員に求められる能力・資質の更なる向上を図る。10月～12月に自己の研究課題や教育課題に即した教育実習(実践研究)に取り組む、課題研究レポート(1月提出)にまとめる。なお、実習は「特別支援教育実践研究実習Ⅰ」の実習校で行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育実習科目 その他の実習	インターンシップ実習Ⅰ	(概要) 学校の教育活動全体について総合的に体験や考察、反省的振り返りを行うとともに、学校の各教育活動に関する高度な実践力・展開力の修得および地域や学校における指導的役割を果たしうるスクールリーダー（中核的中堅教員）としての資質をより確かなものとするをねらいとして、宮崎県教育研修センターや宮崎市教育情報研修センター等で実施する。	
	インターンシップ実習Ⅱ	(概要) 基礎能力発展実習や学校教育実践研究実習において修得した力量のある新入教員に求められる使命感・倫理感、学級経営能力、子ども理解力および教科等の指導力を、小・中・高等学校、特別支援学校、宮崎県教育研修センター、宮崎市教育情報研修センター、その他専攻会議が適切であると認める学外教育諸団体における児童・生徒を対象とした教育活動や研修講座等に体験参加したり参加したりすることを通して、学校づくりの有力な一員としての質をより確かなものにする。	
目標達成確認科目	教職総合研究Ⅰ	(概要) この授業は、以下の3つの事柄から成っている。教職大学院での学習達成度評価にかかわる科目なので、これまでの授業、教育実習などのあらゆる学習を振り返るとともに、自ら設定した課題についての研究を行う。授業時間以外における各自の能動的な学習を求めるものである。 1. 達成度チェック（使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力） 2. 課題研究レポート 3. 課題研究発表会	
	教職総合研究Ⅱ	(概要) この授業は、以下の3つの事柄から成っている。教職大学院での学習達成度評価にかかわる科目なので、これまでの授業、教育実習などのあらゆる学習を振り返るとともに、自ら設定した課題についての研究を行う。授業時間以外における各自の能動的な学習を求めるものである。 1. 達成度チェック（使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力） 2. 課題研究レポート 3. 課題研究発表会	
	教職総合研究Ⅰ（特別支援教育）	(概要) 教職大学院での学習達成度評価にかかわる科目であり、これまでの授業、教育実習などのあらゆる学習を振り返るとともに、自ら設定した課題についての研究を行う。授業時間以外における各自の能動的な学習を求める。 1. 達成度チェック（使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力） 2. 課題研究レポート 3. 課題研究発表会	
	教職総合研究Ⅱ（特別支援教育）	(概要) 教職大学院での学習達成度評価にかかわる科目であり、これまでの授業、教育実習などのあらゆる学習を振り返るとともに、自ら設定した課題についての研究を行う。授業時間以外における各自の能動的な学習を求める。 1. 達成度チェック（使命感・倫理観、学校・学級経営、子ども理解、授業力） 2. 課題研究レポート 3. 課題研究発表会	

国立大学法人宮崎大学 設置申請に関わる組織の移行表

宮崎大学	2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
教育学部 学校教育課程	120	-	-	480	
医学部 医学科	110	-	-	660	
看護学科	60	10	10	260	3年次
工学部	58	53	49	232	3年次
環境応用化学科	53	212	196	212	環境応用化学科
社会環境システム工学科	49	196	196	216	社会環境システム工学科
環境ロボティクス学科	54	10	(共通)	212	環境ロボティクス学科
機械設計システム工学科	53	196	196	216	機械設計システム工学科
電子物理工学科	49	212	212	216	電子物理工学科
電気システム工学科	54	196	196	216	電気システム工学科
情報システム工学科	52	-	-	208	情報システム工学科
農学部	52	-	-	208	農学部
植物生産環境科学科	57	-	-	228	植物生産環境科学科
森林緑地環境科学科	33	-	-	132	森林緑地環境科学科
応用生物科学科	61	-	-	244	応用生物科学科
海洋生物環境学科	30	-	-	180	海洋生物環境学科
畜産草地科学科	90	-	-	360	畜産草地科学科
獣医学科					
地域資源創成学部 地域資源創成学科	90	-	-	360	地域資源創成学部
学部 計	1,035	20	20	4,460	3年次

宮崎大学	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
教育学部 学校教育課程	120	-	-	480	
医学部 医学科	100	-	-	600	2019年度までの定員暫定増終了に伴う減(△10)
看護学科	60	10	10	260	3年次
工学部	58	53	49	232	3年次
環境応用化学科	53	212	196	212	環境応用化学科
社会環境システム工学科	49	196	196	216	社会環境システム工学科
環境ロボティクス学科	54	10	(共通)	212	環境ロボティクス学科
機械設計システム工学科	53	196	196	216	機械設計システム工学科
電子物理工学科	49	212	212	216	電子物理工学科
電気システム工学科	54	196	196	216	電気システム工学科
情報システム工学科	52	-	-	208	情報システム工学科
農学部	52	-	-	208	農学部
植物生産環境科学科	57	-	-	228	植物生産環境科学科
森林緑地環境科学科	33	-	-	132	森林緑地環境科学科
応用生物科学科	61	-	-	244	応用生物科学科
海洋生物環境学科	30	-	-	180	海洋生物環境学科
畜産草地科学科	90	-	-	360	畜産草地科学科
獣医学科					
地域資源創成学部 地域資源創成学科	90	-	-	360	地域資源創成学部
学部 計	1,025	20	20	4,400	3年次

国立大学法人宮崎大学 設置申請に関わる組織の移行表

	2019年度		2020年度		変更の事由
	入学 定員	編入学 定員	入学 定員	編入学 定員	
宮崎大学大学院					
教育学研究科					
教職実践開発専攻(P)	28	-	20	-	研究科の専攻の設置(事前伺い)
学校教育支援専攻(M)	8	-	0	-	2020年4月学生募集停止
看護学研究科					
看護学専攻(M)	10	-	10	-	
工学研究科					
工学専攻(M)	134	-	134	-	
農学研究科					
農学専攻(M)	68	-	68	-	
医学獣医学総合研究科					
医科学獣医学専攻(M)	8	-	10	-	
医学獣医学専攻(D)	23	-	23	-	
農工学総合研究科					
資源環境科学専攻(D)	7	-	7	-	
生物機能応用科学専攻(D)	4	-	4	-	
物質・情報工学専攻(D)	5	-	5	-	
大学院 計	295	-	286	-	
					652

	2019年度		2020年度		変更の事由
	入学 定員	編入学 定員	入学 定員	編入学 定員	
宮崎大学大学院					
教育学研究科					
教職実践開発専攻(P)					
看護学研究科					
看護学専攻(M)					
工学研究科					
工学専攻(M)					
農学研究科					
農学専攻(M)					
地域資源創成学研究科					
地域資源創成学専攻(M)			5	-	研究科の設置(意見伺い)
医学獣医学総合研究科					
医科学獣医学専攻(M)			10	-	定員変更(2)
医学獣医学専攻(D)			23	-	92
農工学総合研究科					
資源環境科学専攻(D)			7	-	21
生物機能応用科学専攻(D)			4	-	12
物質・情報工学専攻(D)			5	-	15
大学院 計			286	-	634